

## 7 人権について

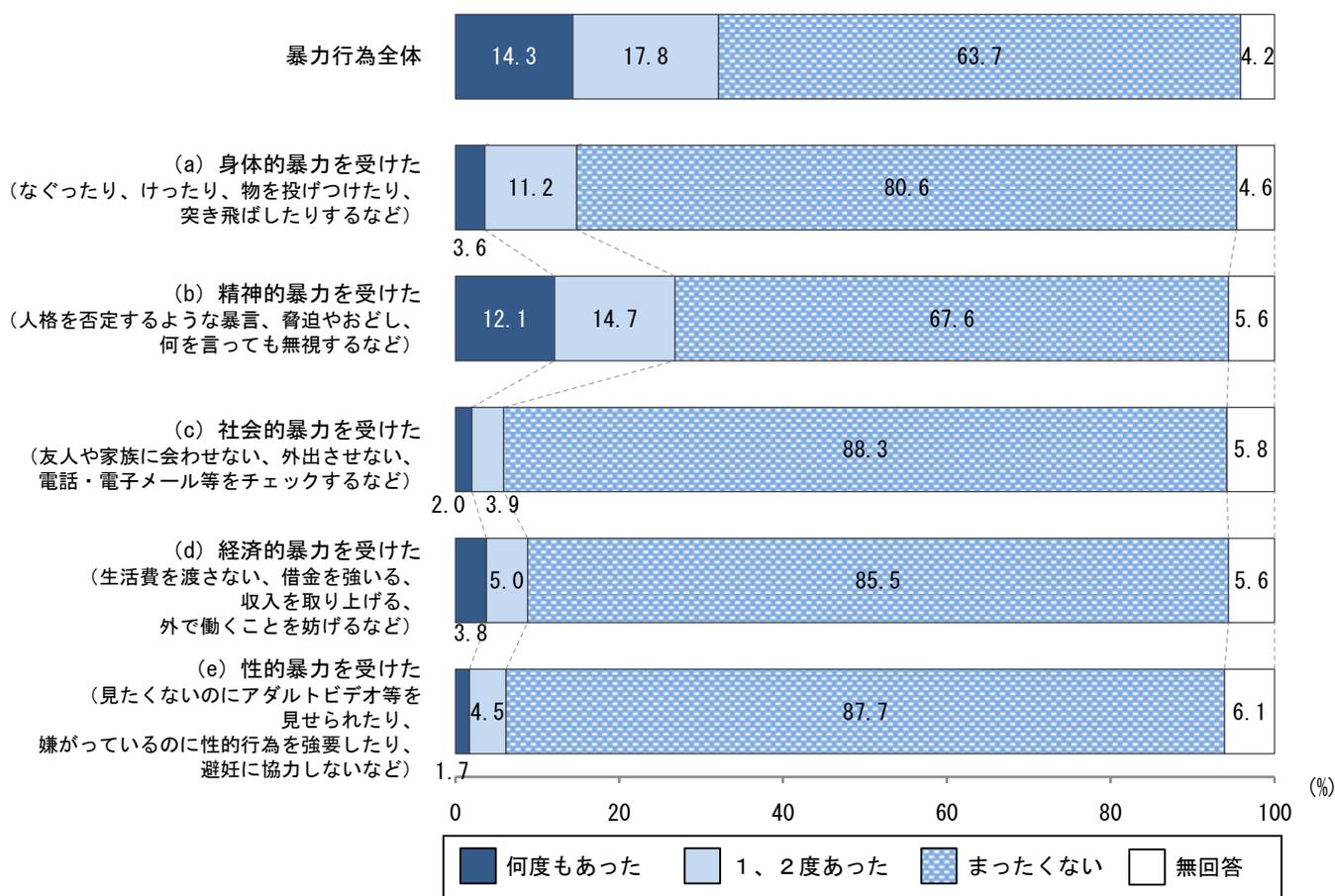
### (1) 配偶者から受けたことのある暴力

これまでに結婚(事実婚を含む)したことのある方のみ

問29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や生活の本拠をともにする交際相手(同棲相手)、別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。((a)~(e)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表 29-1 配偶者から受けたことのある暴力】

(n=1, 276)

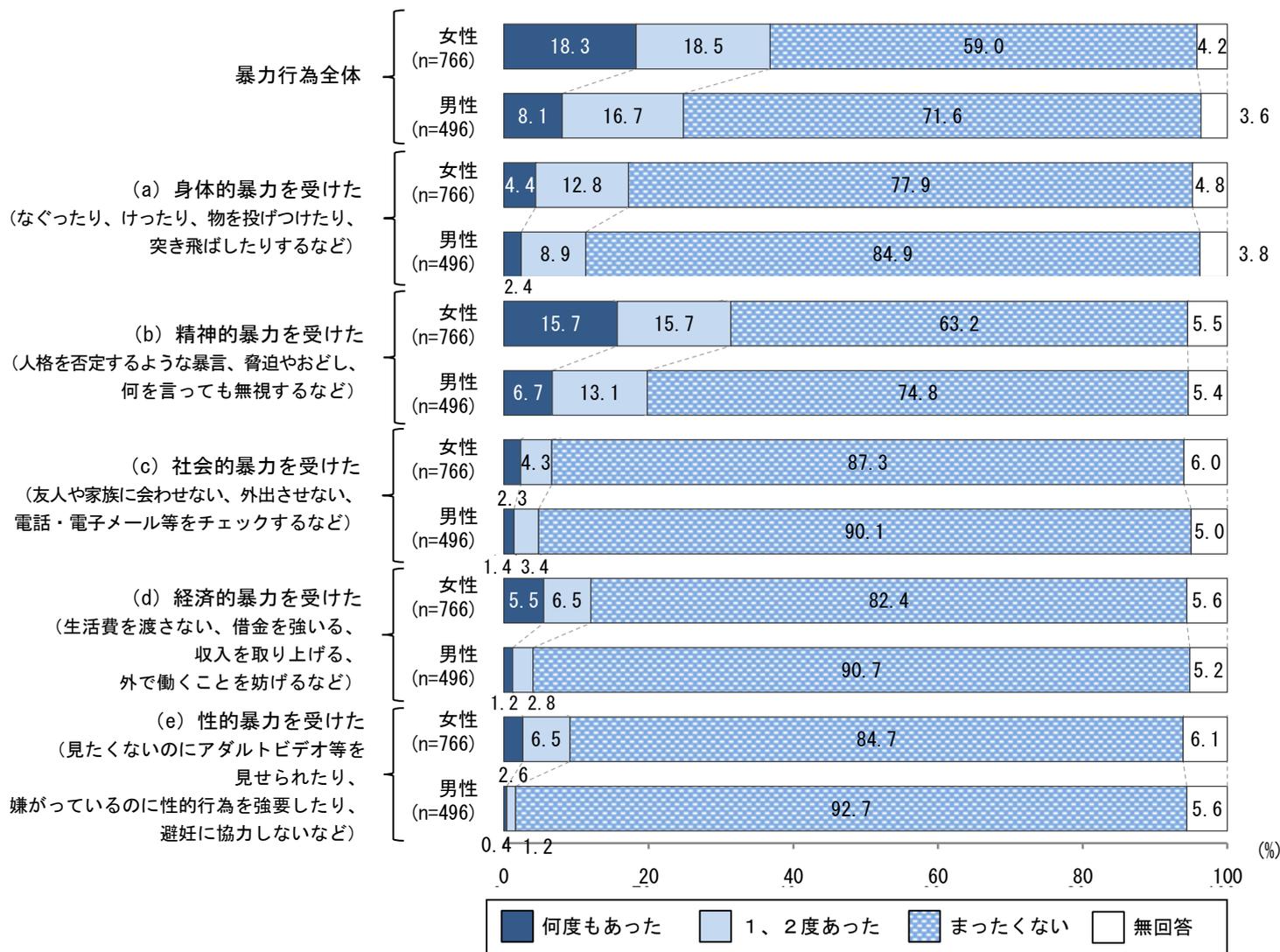


### 3割超の回答者が配偶者から暴力を受けた経験がある

配偶者から受けたことのある暴力について、暴力行為全体(いずれかの暴力を受けたことがある人)では『あった』(「何度もあった」+「1、2度あった」)が32.1%となっている。

また、それぞれの暴力について、「精神的暴力を受けた」は26.8%と最も高くなっている。

【図表 29-2 配偶者から受けたことのある暴力(性別)】

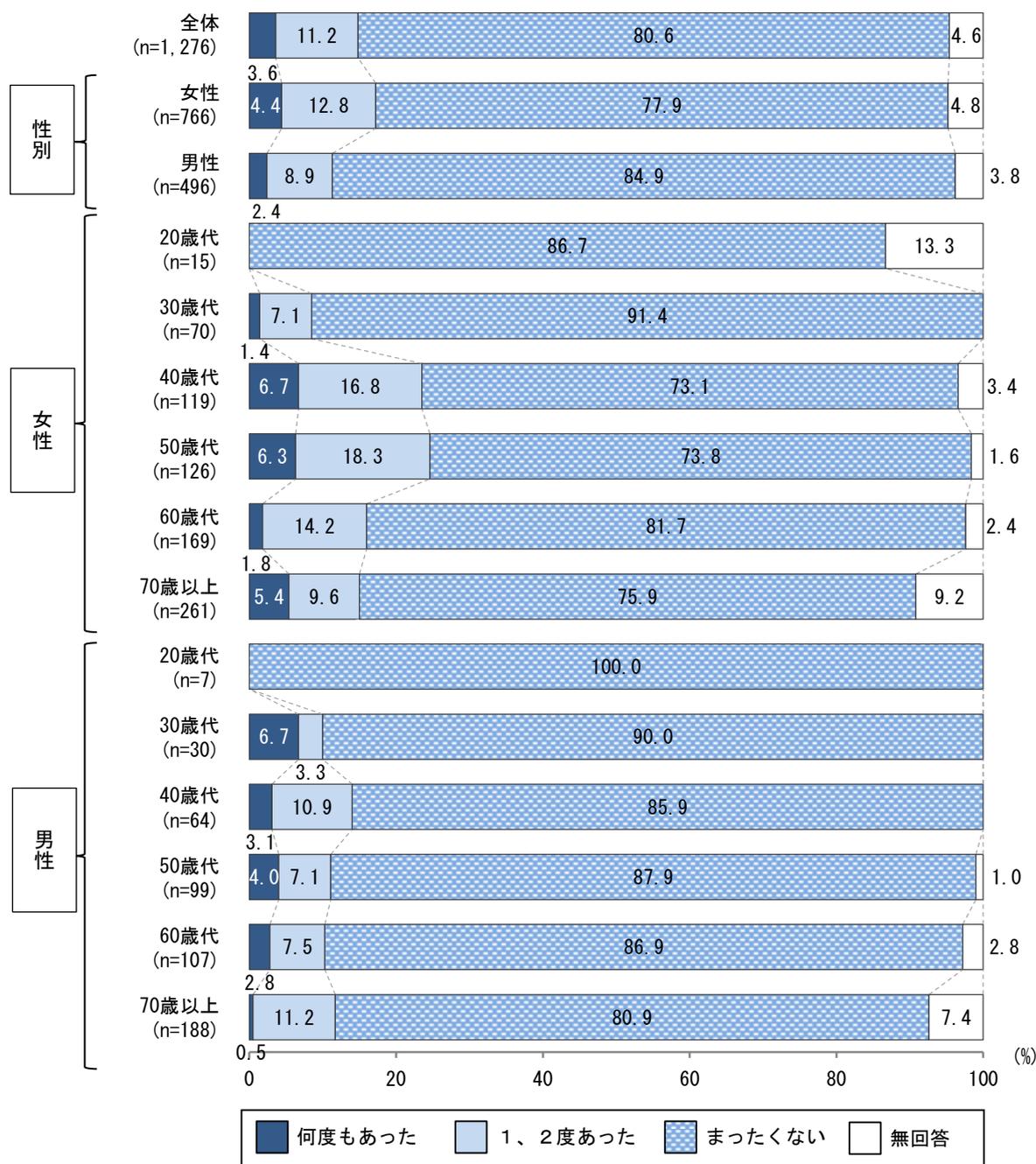


配偶者から受けたことのある暴力について、女性は、「精神的暴力を受けた」が 31.4%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(17.2%)、「経済的暴力を受けた」(12.0%)などの順となっている。

男性は、「精神的暴力を受けた」が 19.8%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(11.3%)、「社会的暴力を受けた」(4.8%)などの順となっている。

(a) 身体的暴力を受けた(なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど)

【図表 29-3 身体的暴力を受けた(性別、性年代別)】

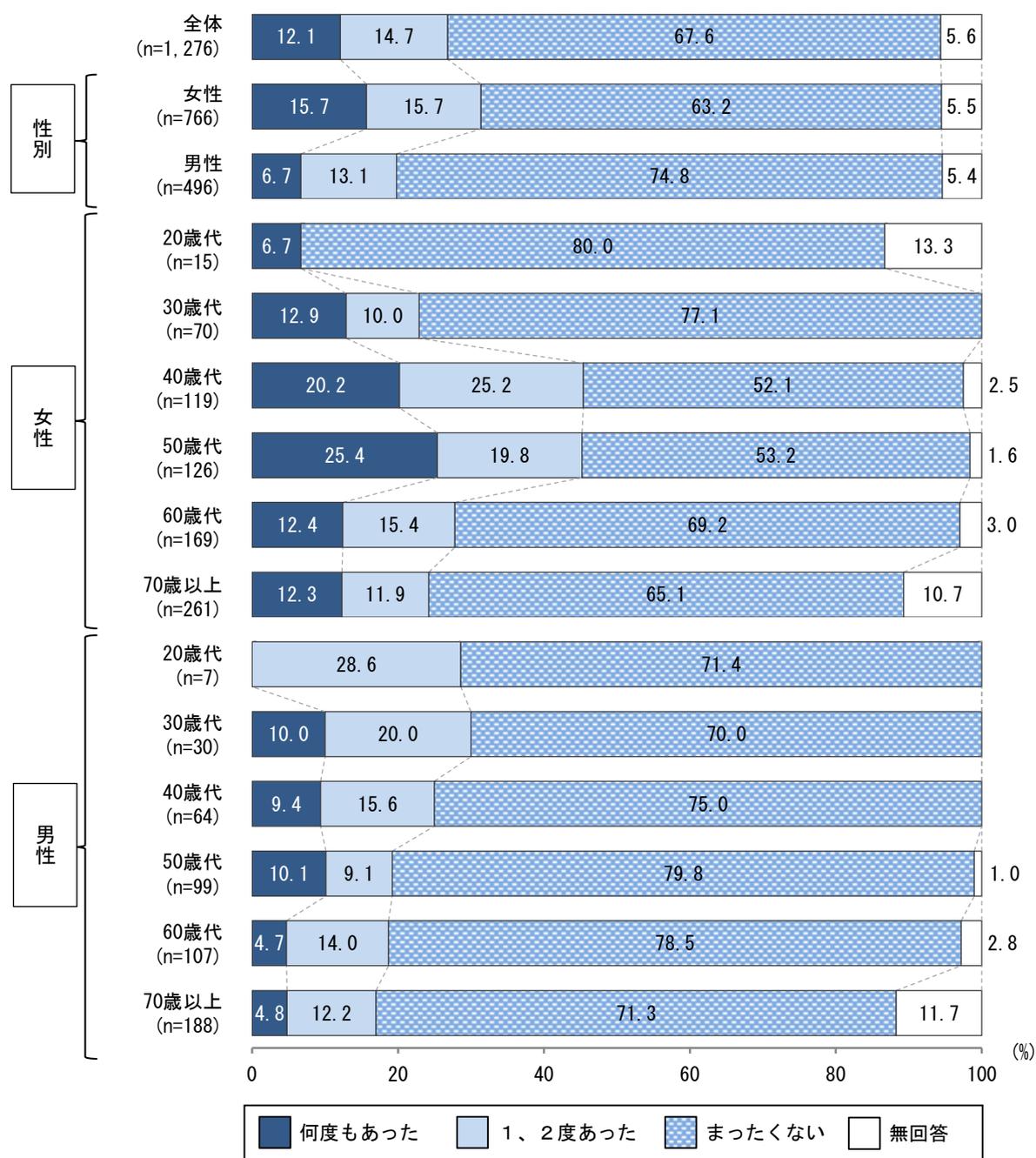


性別にみると、『あった』は女性(17.2%)が男性(11.3%)を 5.9 ポイント上回っている。  
 性年代別にみると、『あった』は女性の 40 歳代及び 50 歳代で2割台半ばと高くなっている。

※男女ともに「20 歳未満」の回答者なし。

(b)精神的暴力を受けた(人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど)

【図表 29-4 精神的暴力を受けた(性別、性年代別)】

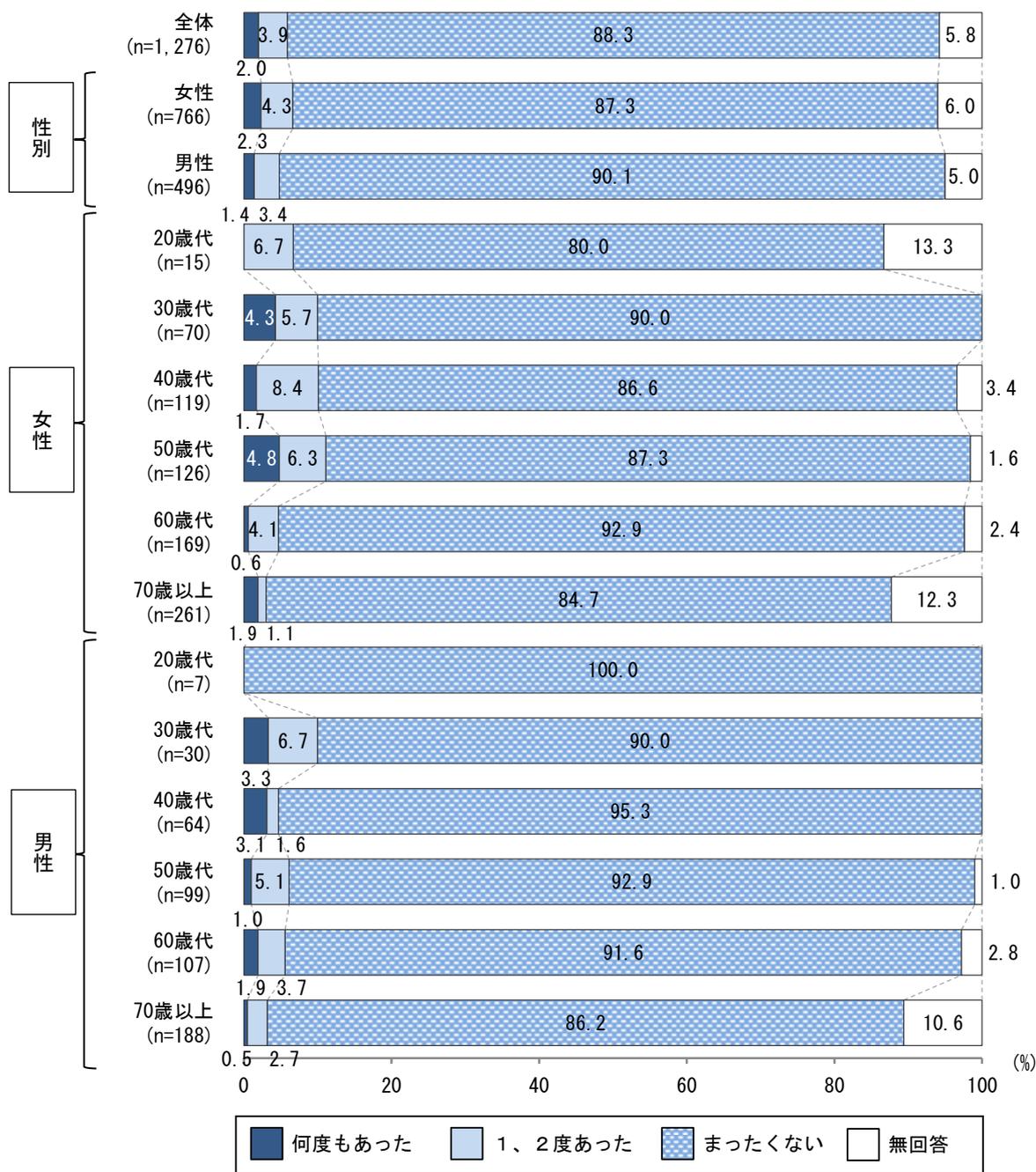


性別にみると、『あった』は女性(31.4%)が男性(19.8%)を 11.6 ポイント上回っている。  
 性年代別にみると、『あった』は女性の 40 歳代及び 50 歳代で4割台半ばと高くなっている。

※男女ともに「20 歳未満」の回答者なし。

(c) 社会的暴力を受けた(友人や家族に会わせない、外出させない、電話・電子メール等チェックするなど)

【図表 29-5 社会的暴力を受けた(性別、性年代別)】



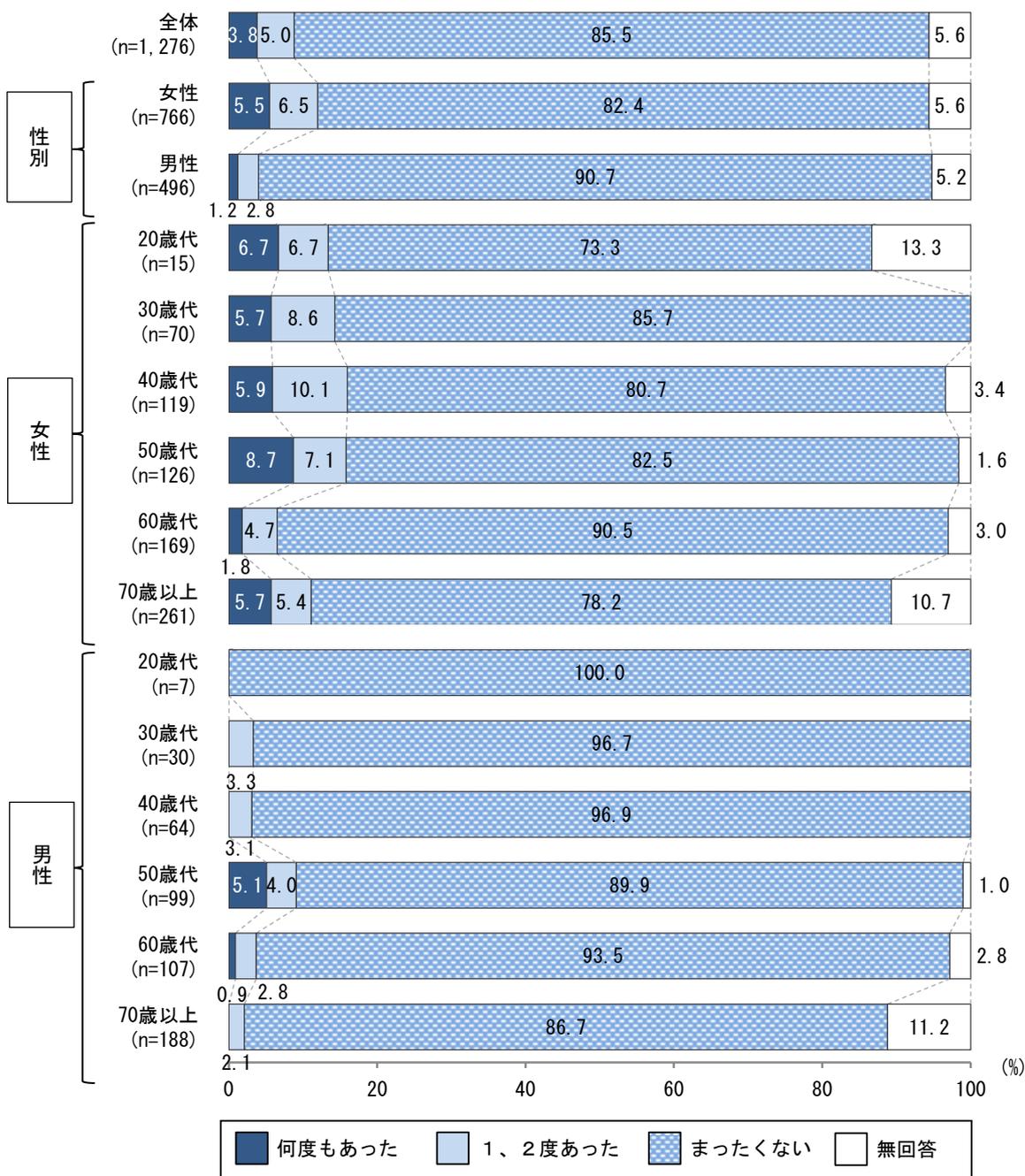
性別にみると、大きな差はみられない。

性年代別にみると、『あった』は女性は30歳代～50歳代、男性は30歳代で1割台と高くなっている。

※男女ともに「20歳未満」の回答者なし。

(d) 経済的暴力を受けた(生活費を渡さない、借金を強いる、収入を取り上げる、外で働くことを妨げるなど)

【図表 29-6 経済的暴力を受けた(性別、性年代別)】

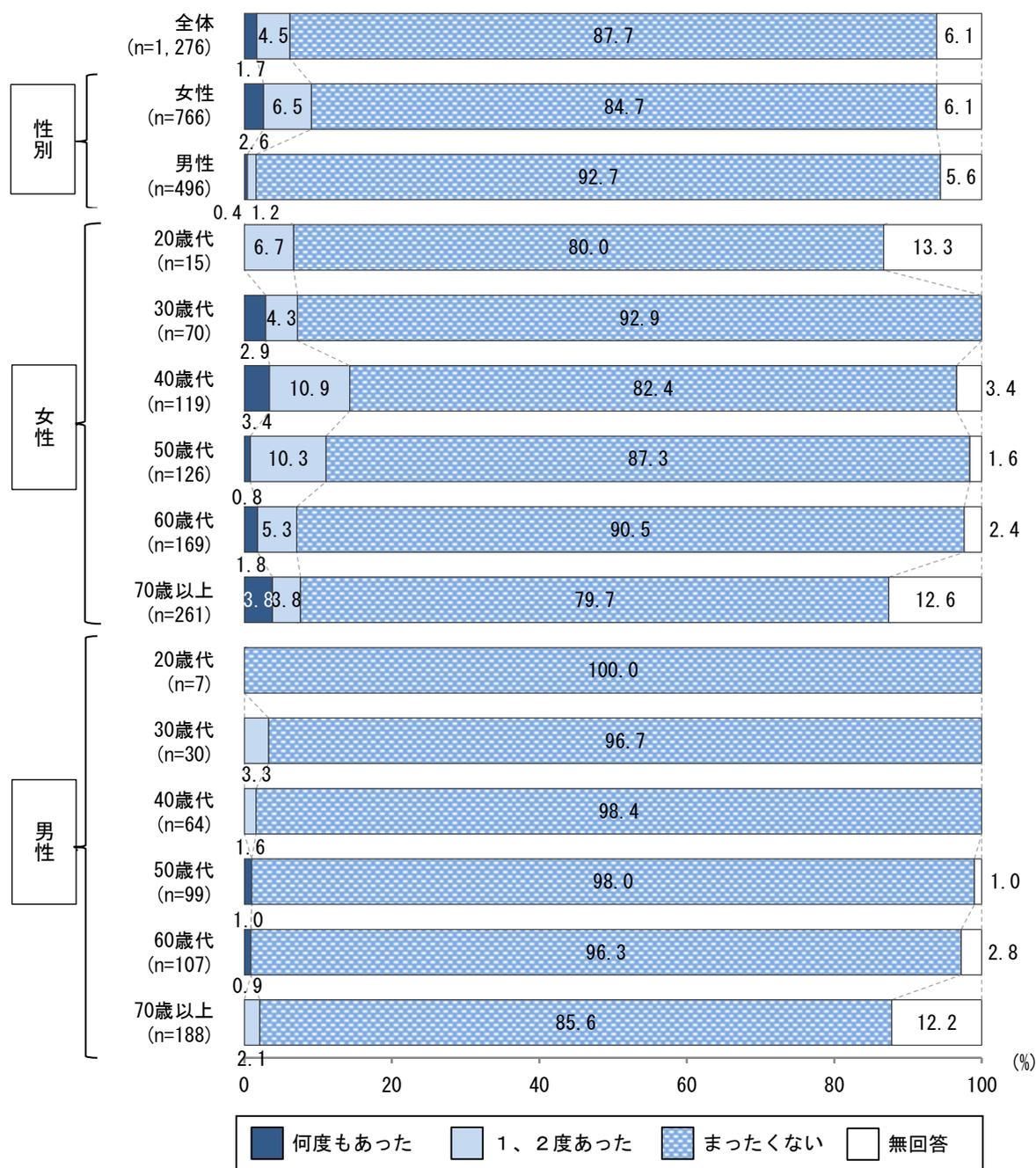


性別にみると、『あった』は女性(12.0%)が男性(4.0%)を8.0ポイント上回っている。  
 性年代別にみると、『あった』は女性の20歳代~50歳代で1割台半ばと高くなっている。

※男女ともに「20歳未満」の回答者なし。

(e)性的暴力を受けた(見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど)

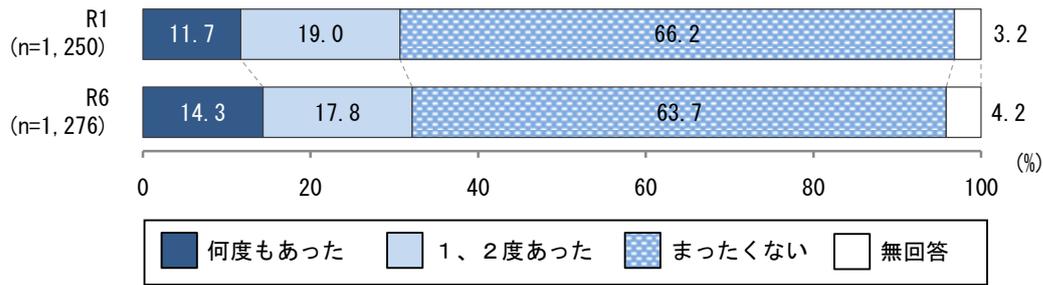
【図表 29-7 性的暴力を受けた(性別、性年代別)】



性別にみると、『あった』は女性(9.1%)が男性(1.6%)を 7.5 ポイント上回っている。  
 性年代別にみると、『あった』は女性の 40 歳代で1割台半ばと高くなっている。

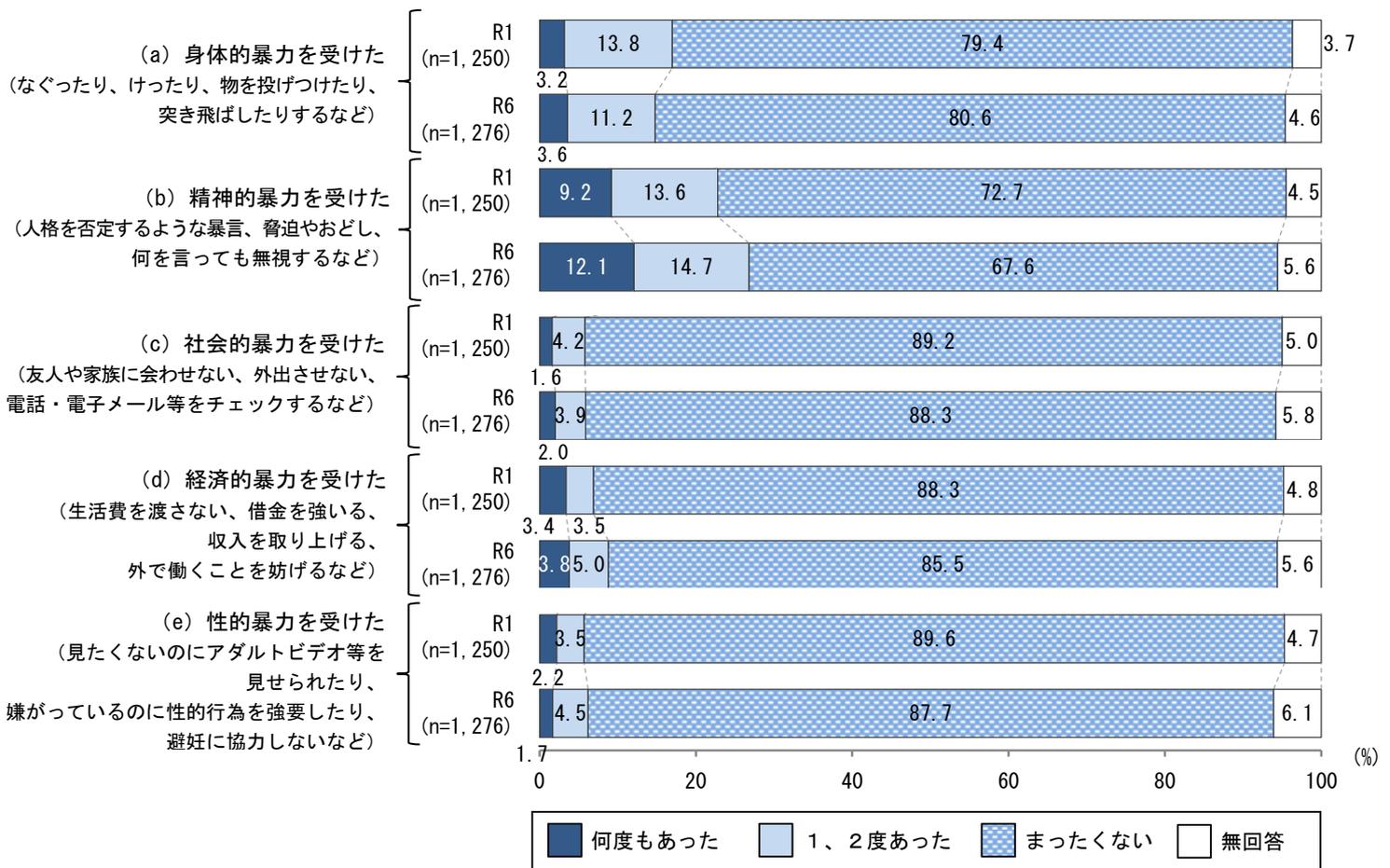
※男女ともに「20 歳未満」の回答者なし。

【図表 29-8 配偶者から暴力を受けた経験(経年比較・暴力行為全体)】



経年比較でみると、大きな差はみられない。

【図表 29-9 配偶者から受けたことのある暴力(経年比較・暴力の種類別)】



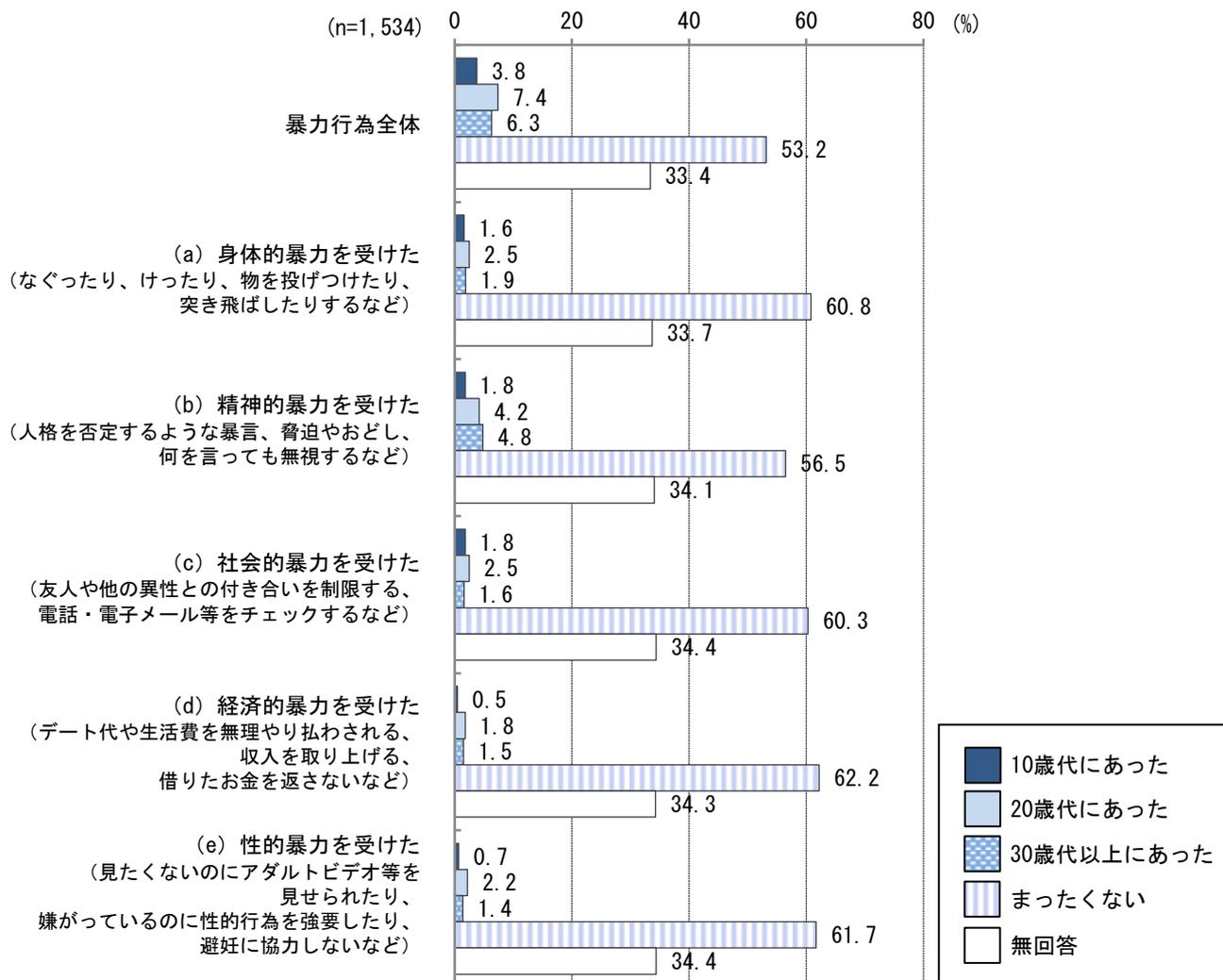
経年比較でみると、「精神的暴力を受けた」について、『あった』は令和6年調査(26.8%)が令和元年調査(22.8%)を4.0ポイント上回っている。

(2) 交際相手から受けたことのある暴力

これまでに交際相手がいた方のみ

問30 あなたは、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。(a)～(e)でそれぞれ1つだけ✓)

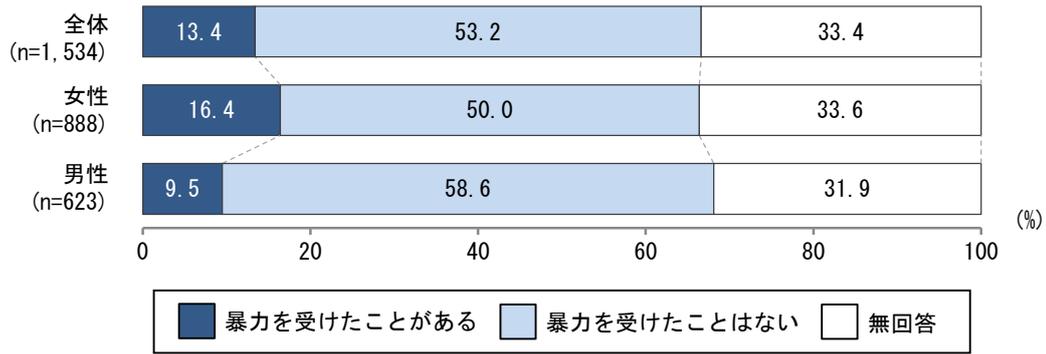
【図表 30-1 交際相手から受けたことのある暴力】



交際相手から暴力行為を受けたことのある年代は20歳代が多い

当時の交際相手から暴力行為を受けた年代は、「20歳代にあった」が7.4%と最も高くなっている。また、受けたことのある暴力について、「精神的暴力を受けた」が10.8%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(6.0%)、「社会的暴力を受けた」(5.9%)などの順となっている。

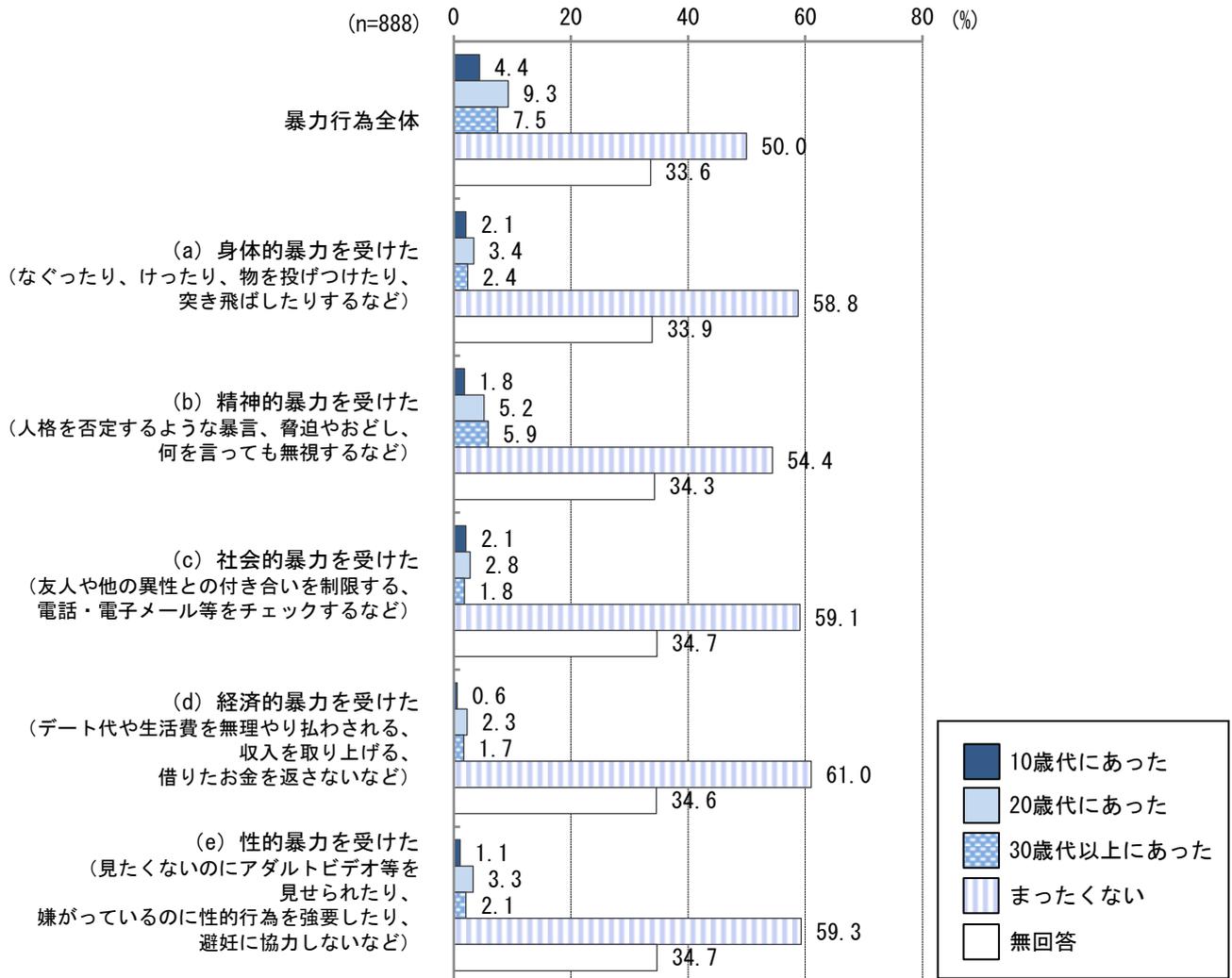
【図表 30-2 交際相手から暴力を受けた経験(性別)】



交際相手から身体的暴力、精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力のいずれかの『暴力を受けたことがある』(「10 歳代にあった」、「20 歳代にあった」、「30 歳代以上にあった」を合わせた割合)は 13.4%となっている。

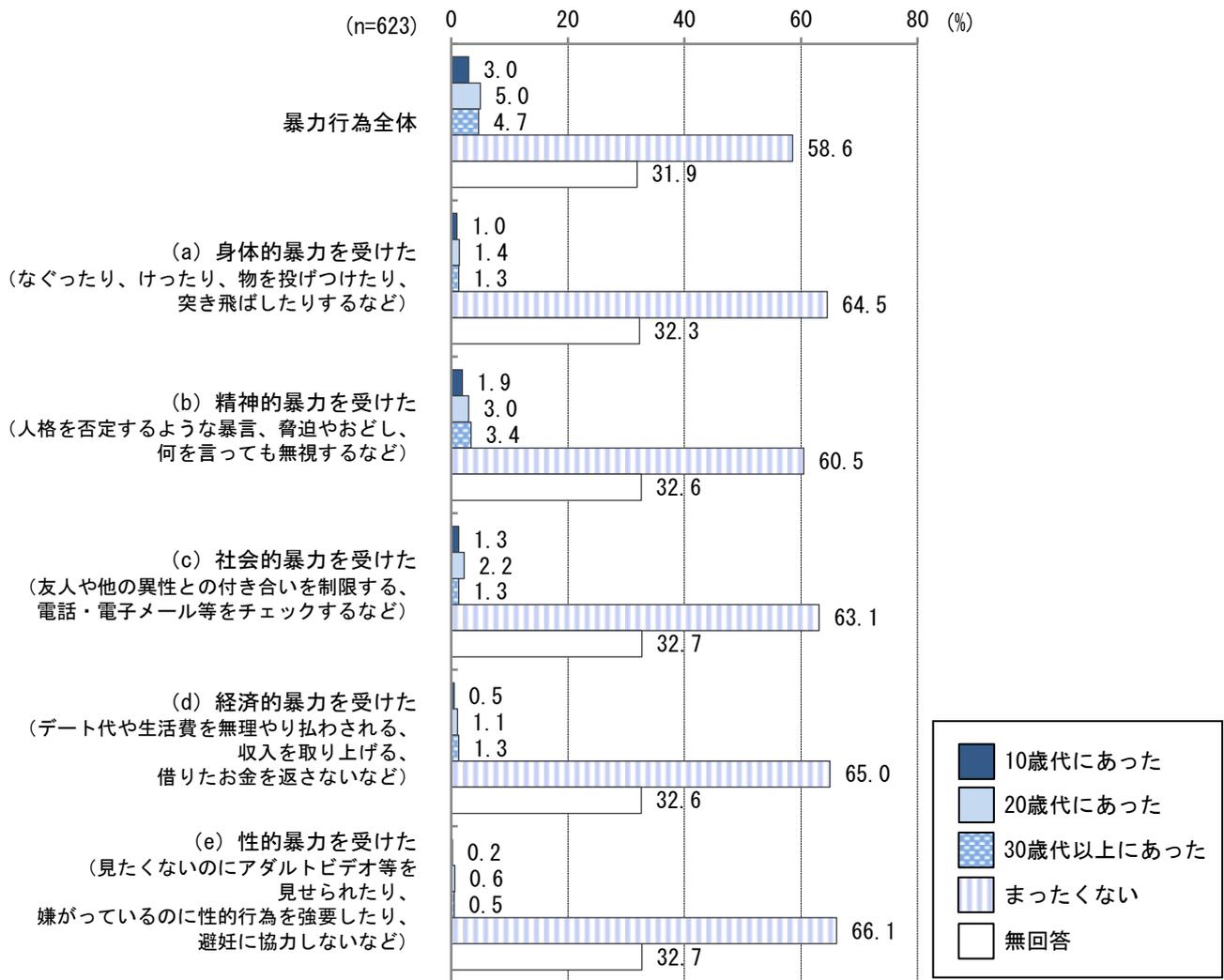
性別にみると、『暴力を受けたことがある』は女性(16.4%)が男性(9.5%)を 6.9 ポイント上回っている。

【図表 30-3 交際相手から受けたことのある暴力(女性)】



交際相手から受けたことのある暴力について、女性は、「精神的暴力を受けた」が 12.9%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(7.9%)、「社会的暴力を受けた」(6.7%)などの順となっている。

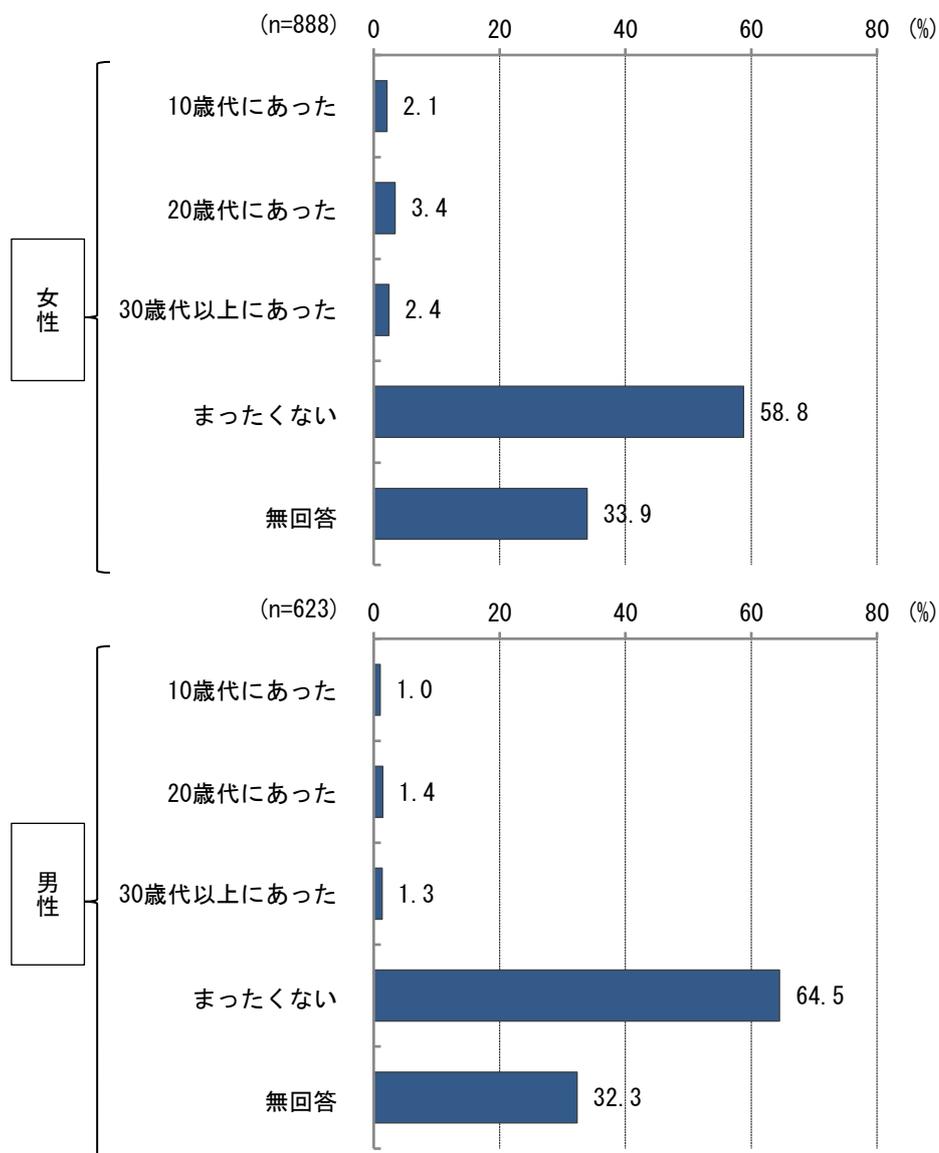
【図表 30-4 交際相手から受けたことのある暴力(男性)】



交際相手から受けたことのある暴力について、男性は、「精神的暴力を受けた」が 8.3%と最も高く、次いで「社会的暴力を受けた」(4.8%)、「身体的暴力を受けた」(3.7%)などの順となっている。

(a) 身体的暴力を受けた(なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど)

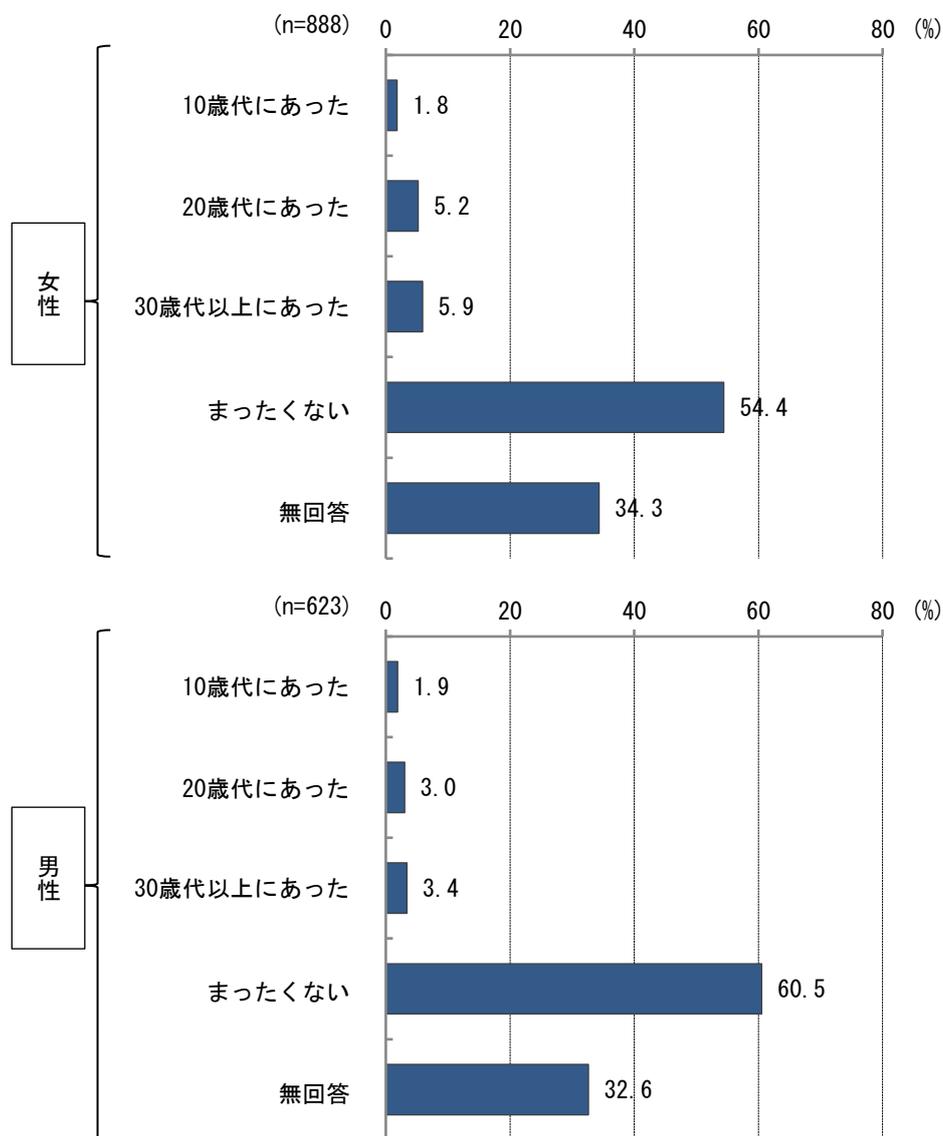
【図表 30-5 身体的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「20歳代にあった」が高くなっている。

(b)精神的暴力を受けた(人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど)

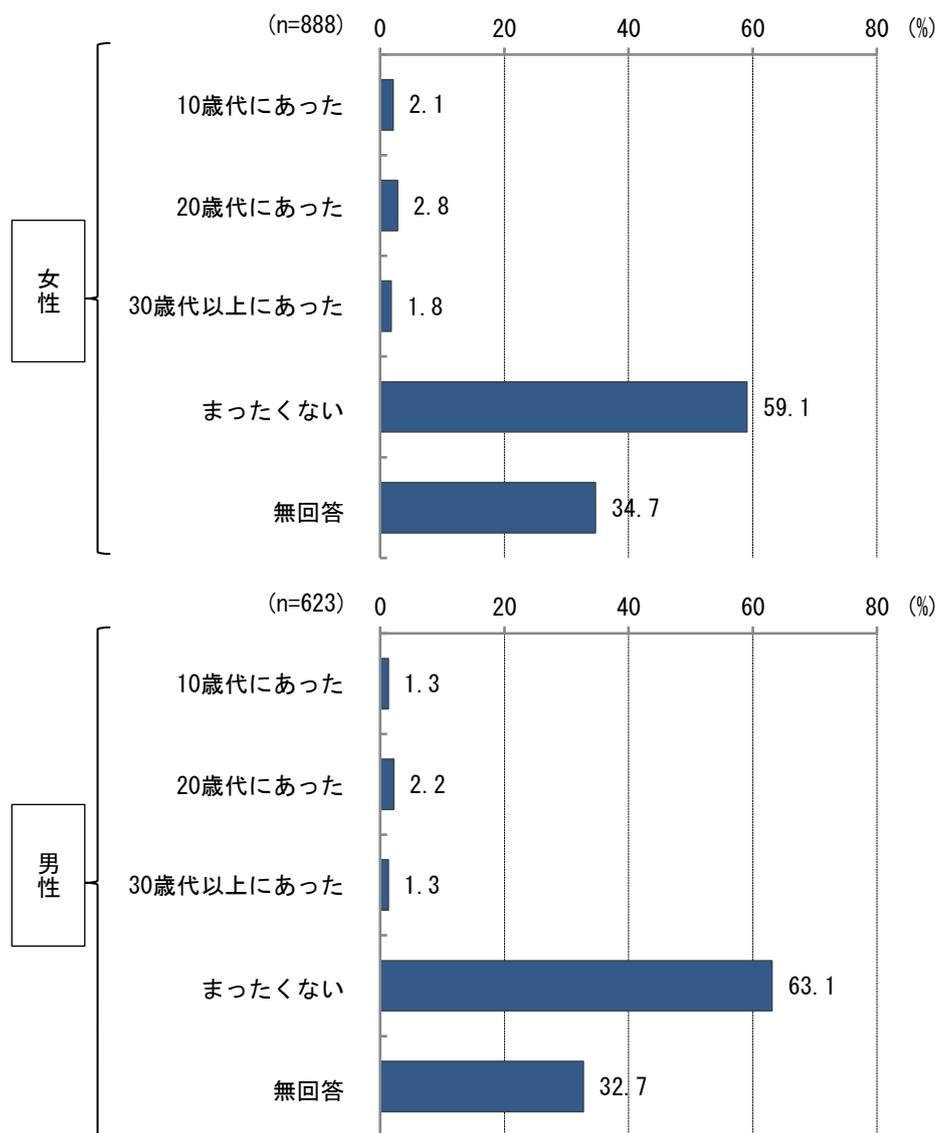
【図表 30-6 精神的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「30歳代以上にあった」が高くなっている。

(c) 社会的暴力を受けた(友人や他の異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等をチェックするなど)

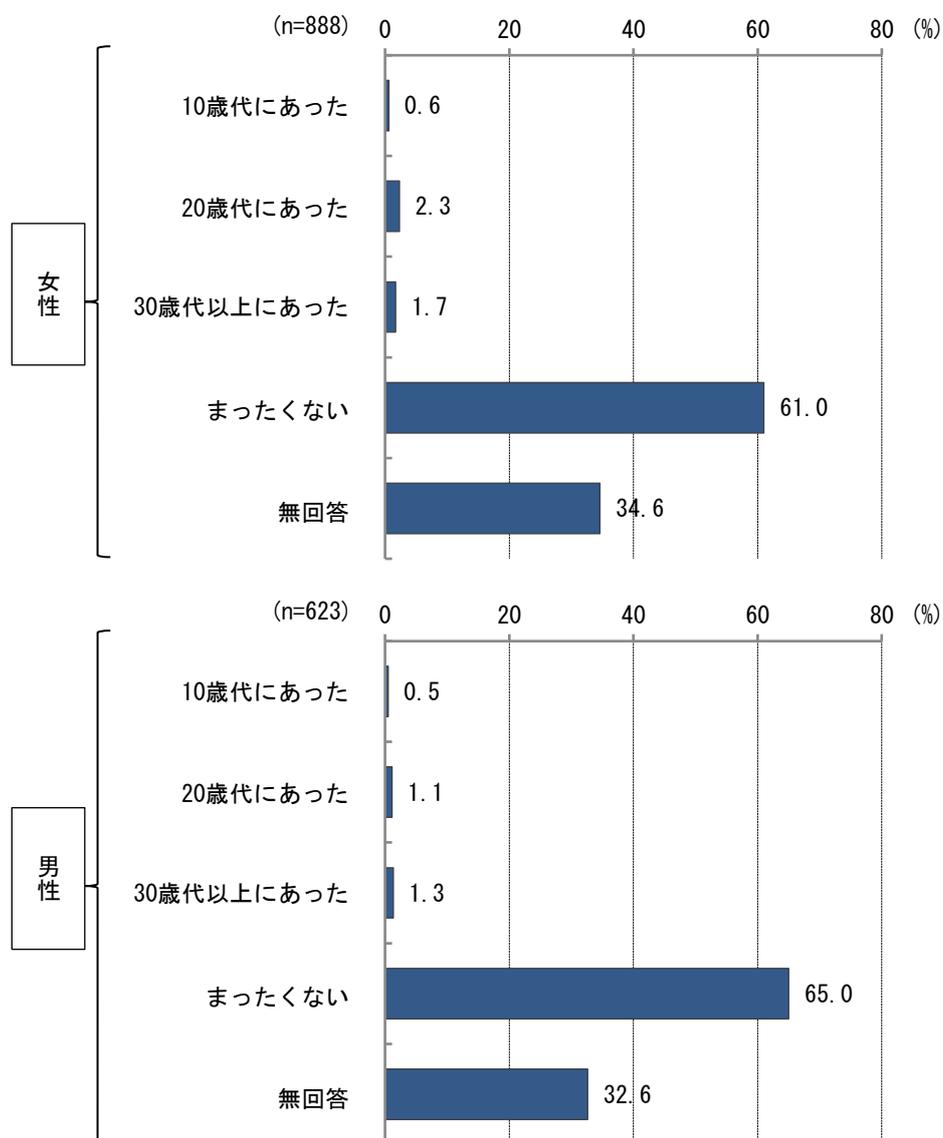
【図表 30-7 社会的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「20 歳代にあった」が高くなっている。

(d) 経済的暴力を受けた(デート代や生活費を無理やり払わされる、収入を取り上げる、借りたお金を返さないなど)

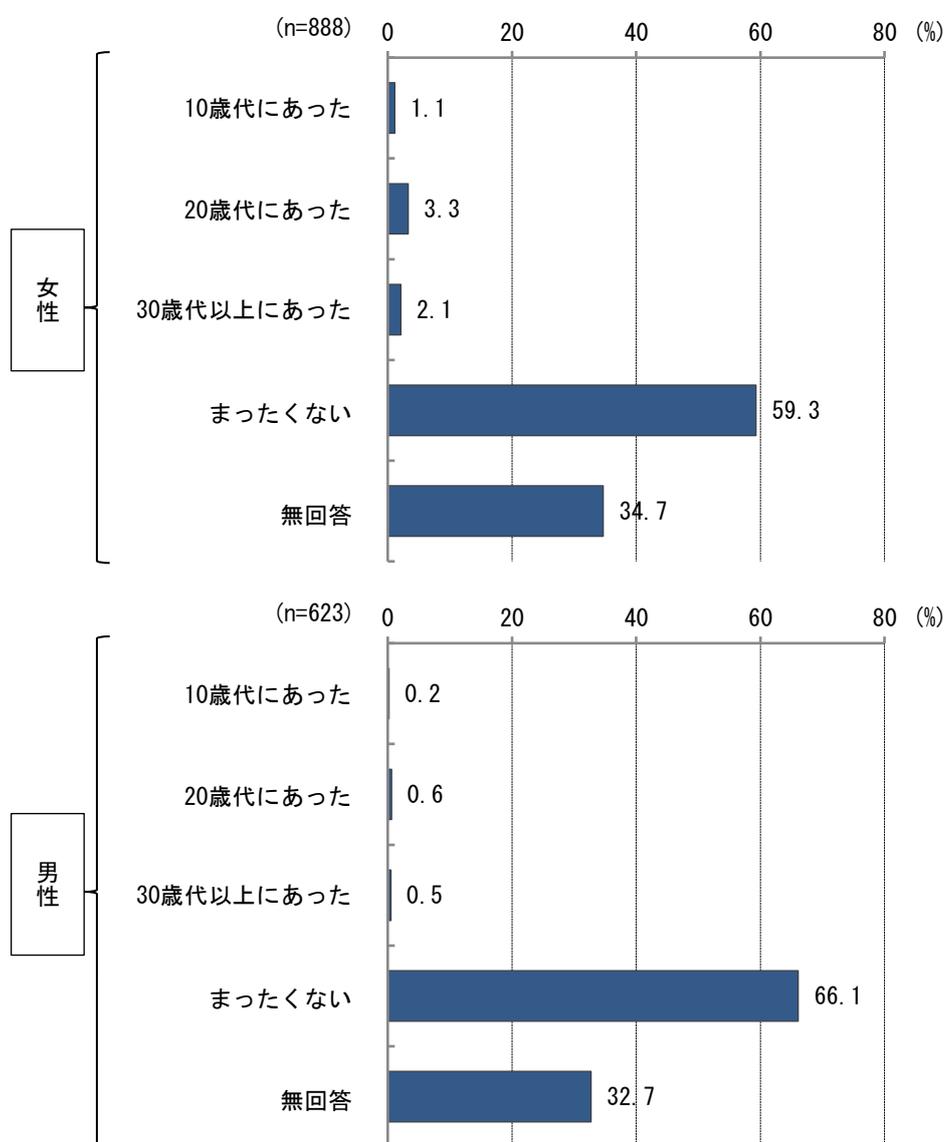
【図表 30-8 経済的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、女性は「20 歳代にあった」、男性は「30 歳代以上にあった」が高くなっている。

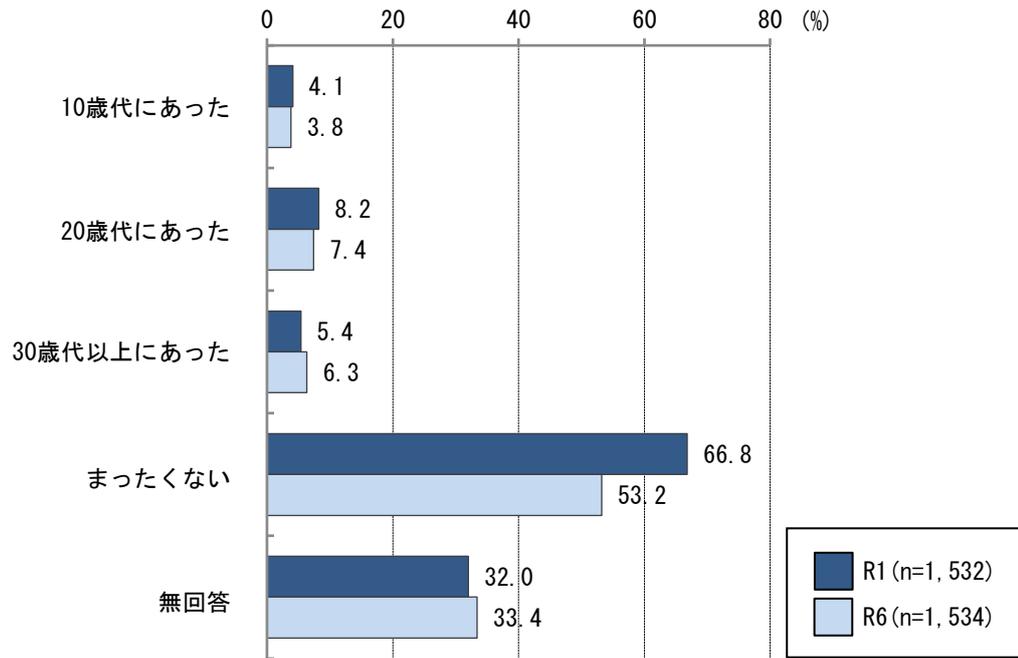
(e)性的暴力を受けた(見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど)

【図表 30-9 性的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「20歳代にあった」が高くなっている。

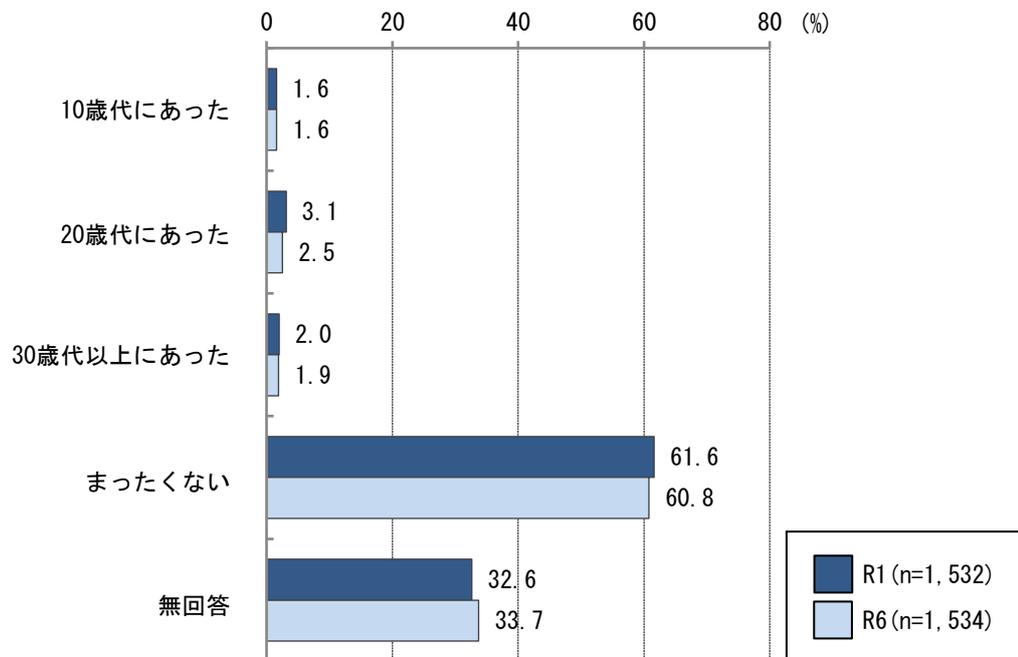
【図表 30-10 交際相手から暴力を受けた経験(経年比較・暴力行為全体)】



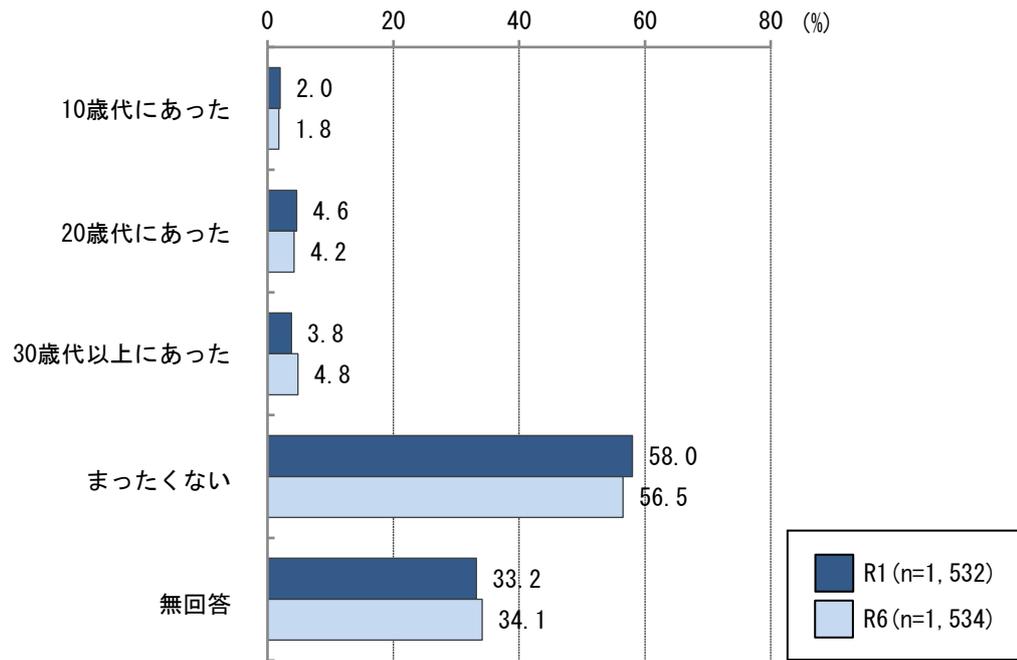
経年比較で見ると、「まったくない」は令和6年調査(53.2%)が令和元年調査(66.8%)よりも 13.6 ポイント減少している。

【図表 30-11 交際相手から受けたことのある暴力(経年比較・暴力の種類別)】

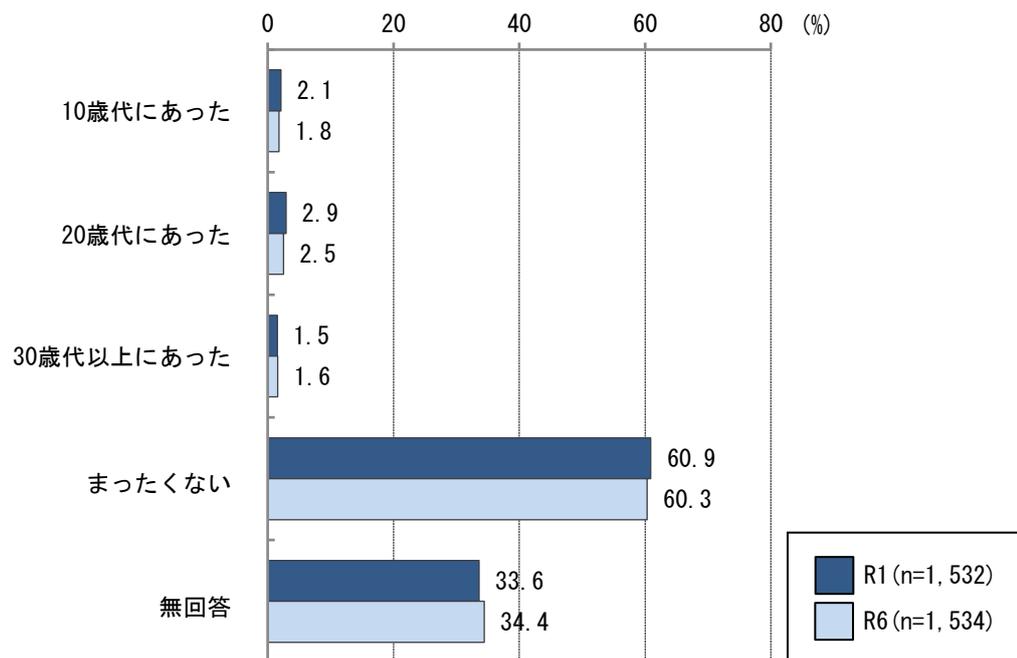
(a) 身体的暴力を受けた



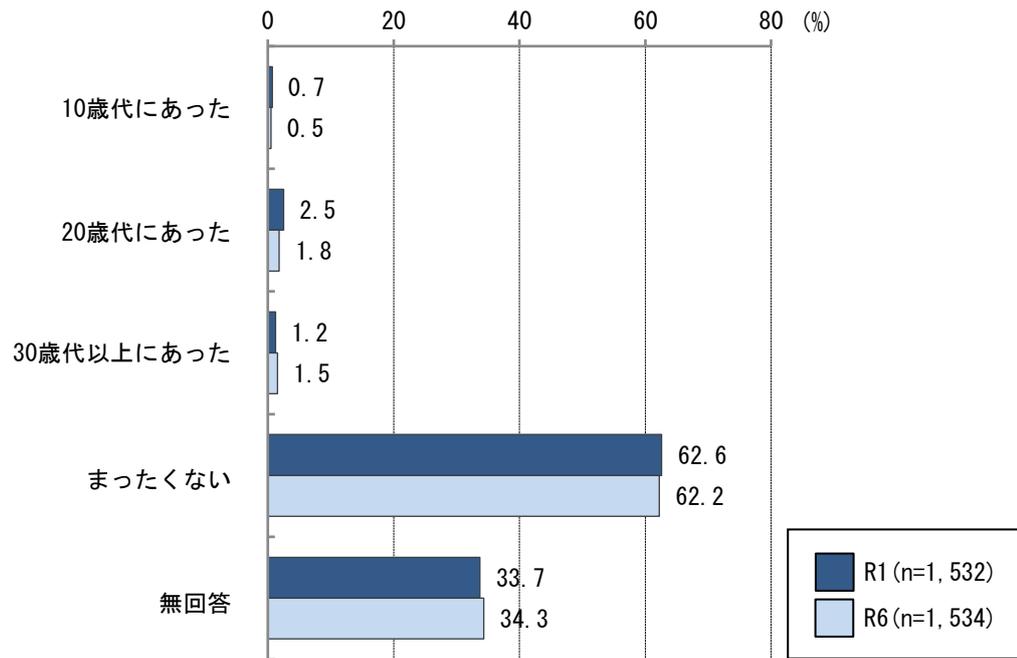
(b)精神的暴力を受けた



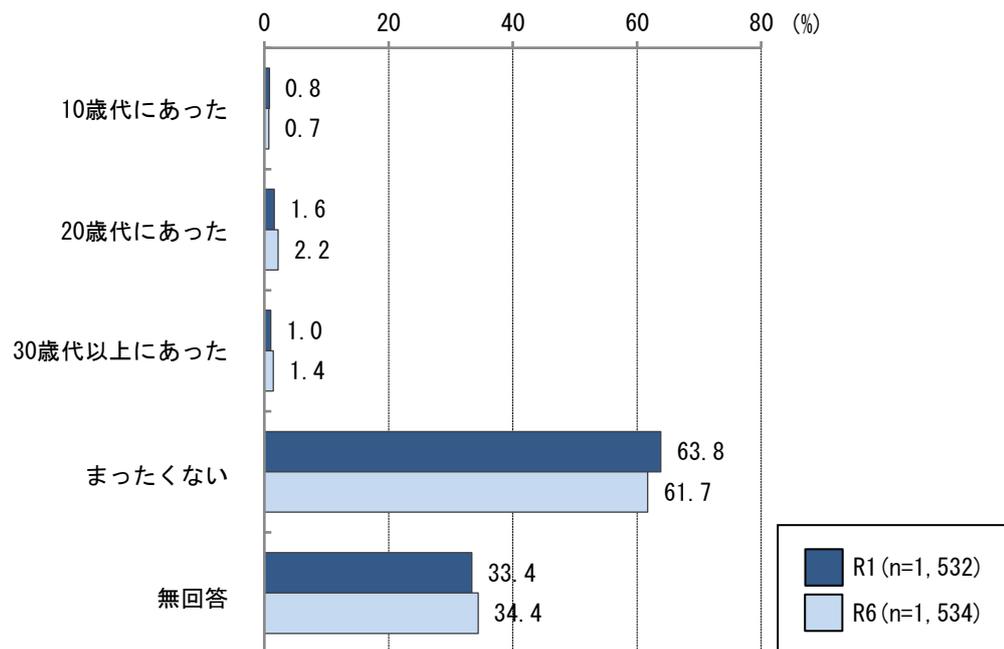
(c)社会的暴力を受けた



(d) 経済的暴力を受けた



(e) 性的暴力を受けた



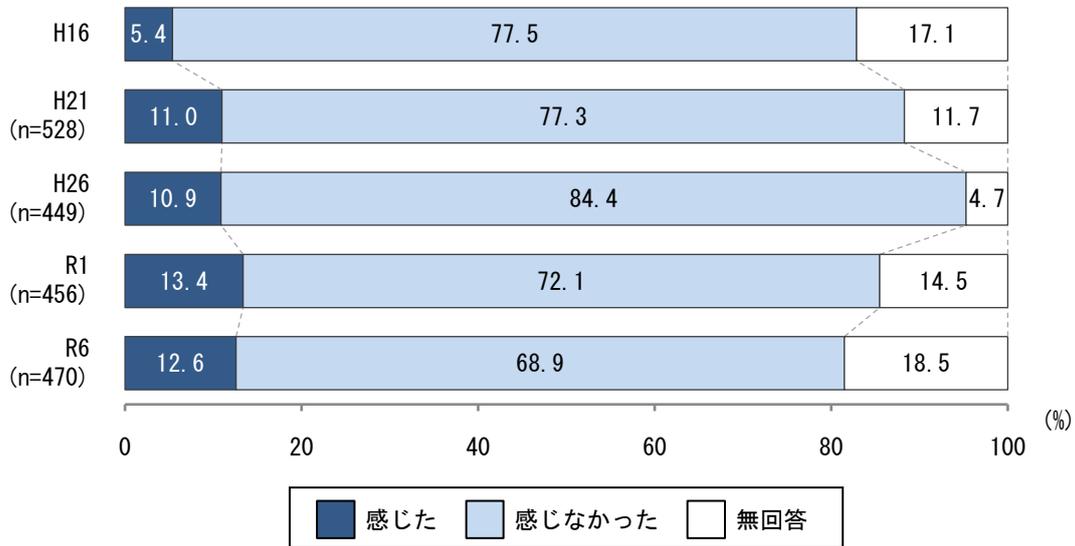
受けた暴力の種類別で経年比較でみると、どの暴力行為でも大きな差はみられない。

(3) 命の危険を感じたこと

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみ

問31 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(✓は1つ)

【図表 31-1 命の危険を感じたこと】暴力行為経験者ベース

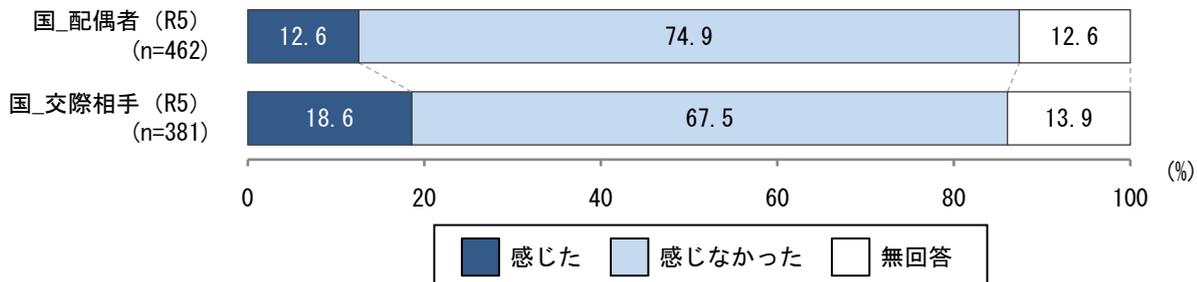


配偶者や交際相手からの暴力行為に「命の危険を感じた」人の割合は1割超

配偶者や交際相手から暴力を受けたことがある人で、相手の行為によって命の危険を感じたことについて、「感じた」は12.6%、「感じなかった」は68.9%となっている。

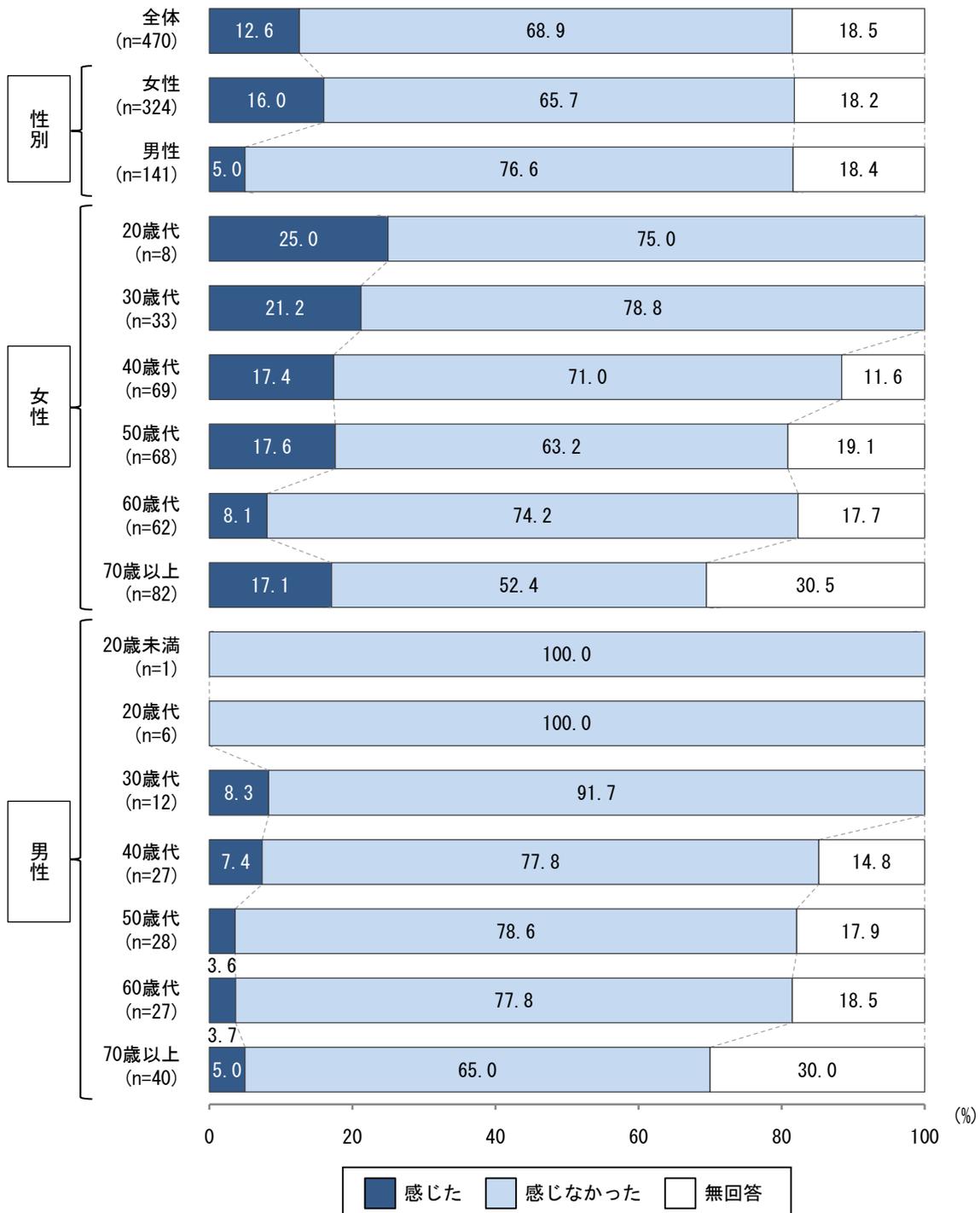
経年比較でみると、大きな差はみられない。

【図表 31-2 命の危険を感じたこと(国調査)】暴力行為経験者ベース



※国調査「男女間における暴力に関する調査」(令和5年度調査)

【図表 31-3 命の危険を感じたこと(性別、性年代別)】暴力行為経験者ベース

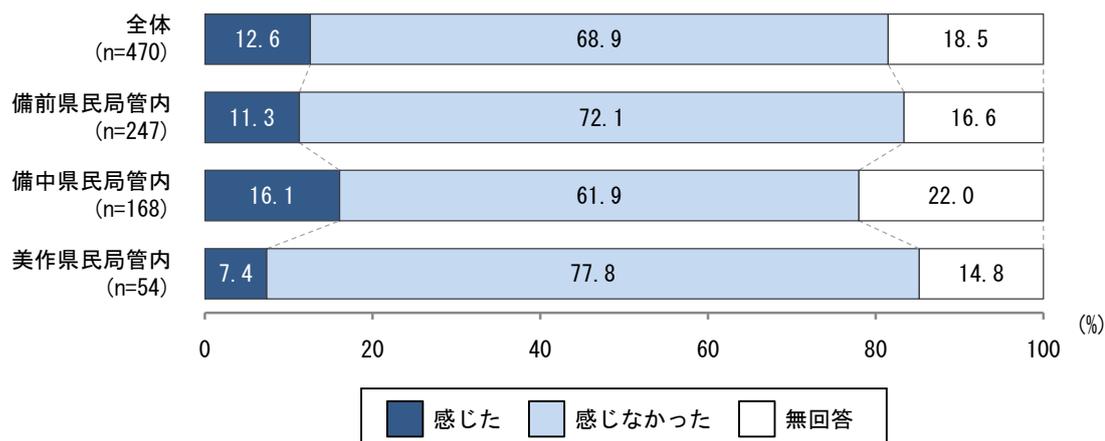


性別にみると、配偶者や交際相手から暴力を受けたことがある人で、相手の行為によって命の危険を「感じた」人は女性が16.0%、男性が5.0%となっており、女性は男性の約3倍となっている。

性年代別にみると、命の危険を「感じた」は女性は20歳代及び30歳代で2割を超え、40歳代、50歳代及び70歳以上でも1割台後半となっている。男性は30歳代(8.3%)が最も高くなっている。

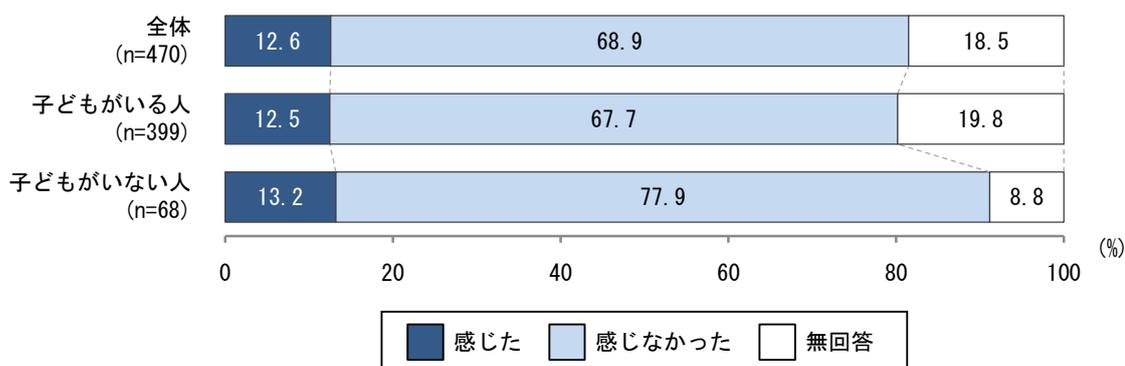
※女性「20歳未満」の回答者なし。

【図表 31-4 命の危険を感じたこと(地域別)】暴力行為経験者ベース



地域別にみると、命の危険を「感じた」人は備中県民局管内(16.1%)が最も高く、美作県民局管内(7.4%)の約2倍となっている。

【図表 31-5 命の危険を感じたこと(子どもの有無別)】暴力行為経験者ベース



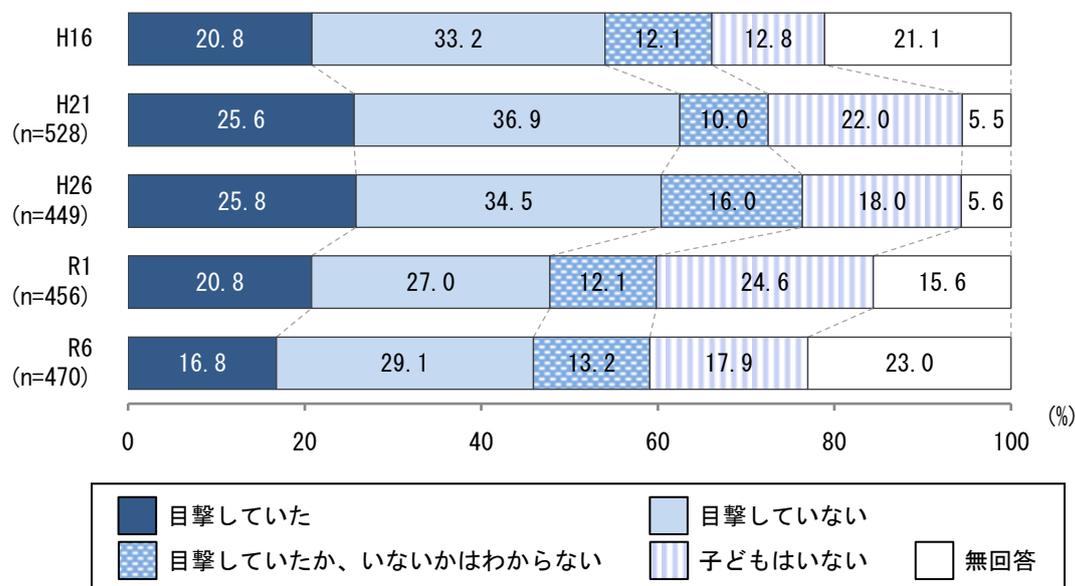
子どもの有無別にみると、命の危険を「感じた」人は子どもの有無に関わらず、あまり大きな差はみられない。

#### (4) 子どもの目撃

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみ

問32 あなたがその相手からの行為を受けていたときに、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。(✓は1つ)

【図表 32-1 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか】暴力行為経験者ベース

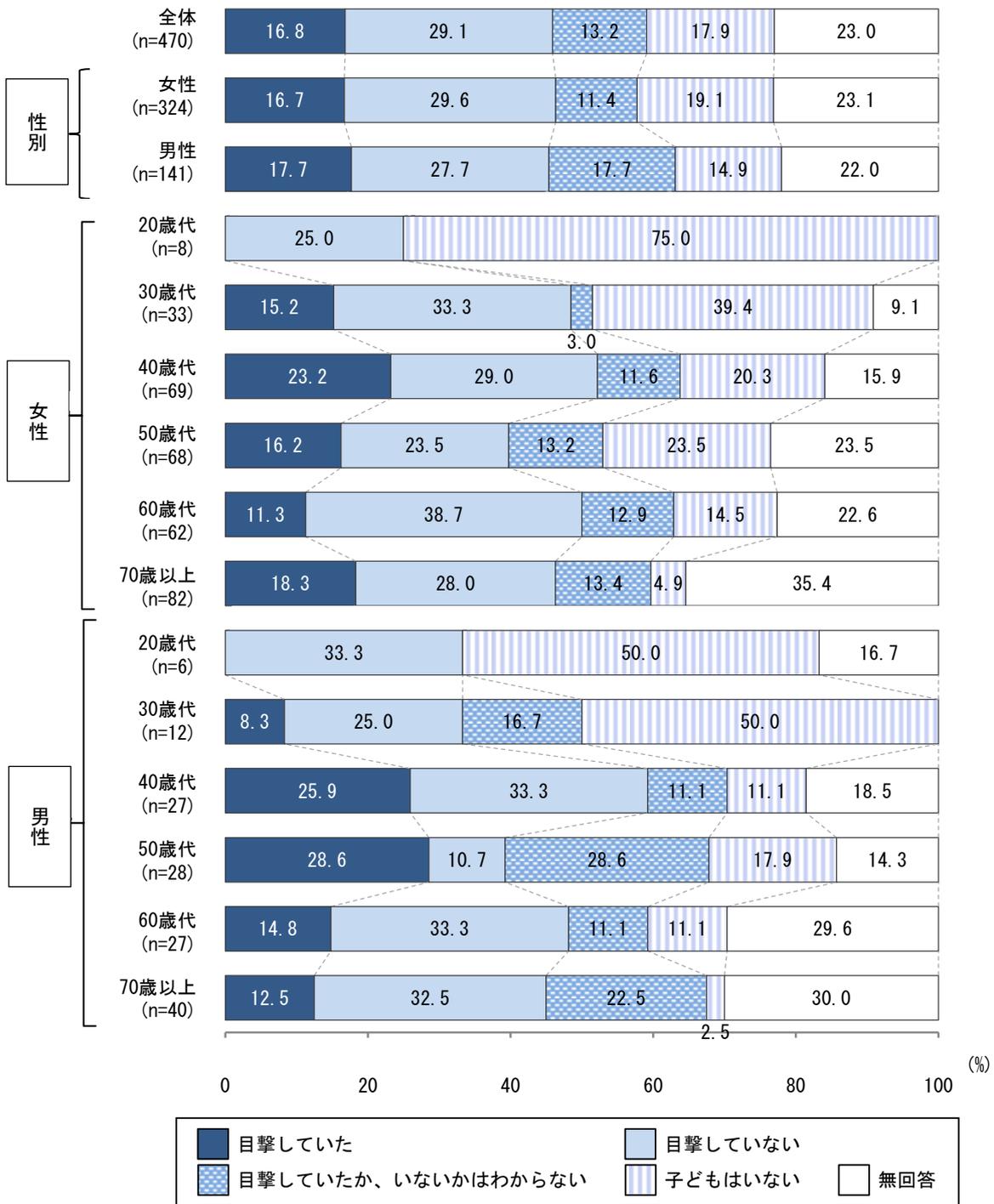


#### 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが「目撃していた」割合は1割台半ば

配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうかについて、「目撃していない」が29.1%と最も高く、次いで「子どもはいない」(17.9%)、「目撃していた」(16.8%)などの順となっている。

経年比較でみると、子どもが「目撃していた」は2割台で推移していたが、令和6年調査では1割台半ばに低下している。

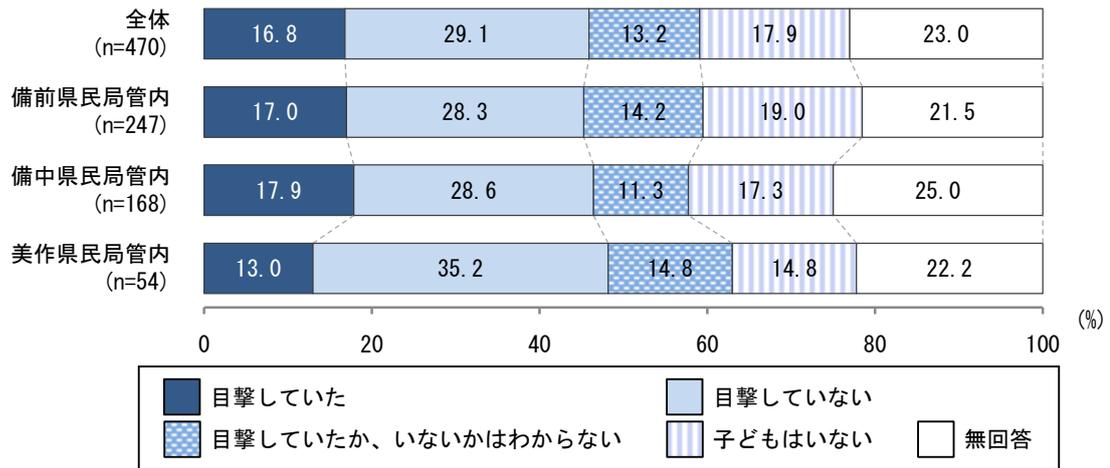
【図表 32-2 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか(性別、性年代別)】**暴力行為経験者ベース**



性別にみると、大きな差はみられない。  
 性年代別にみると、男女ともに「目撃していた」は40歳代で2割台半ば、男性の50歳代で約3割と高くなっている。

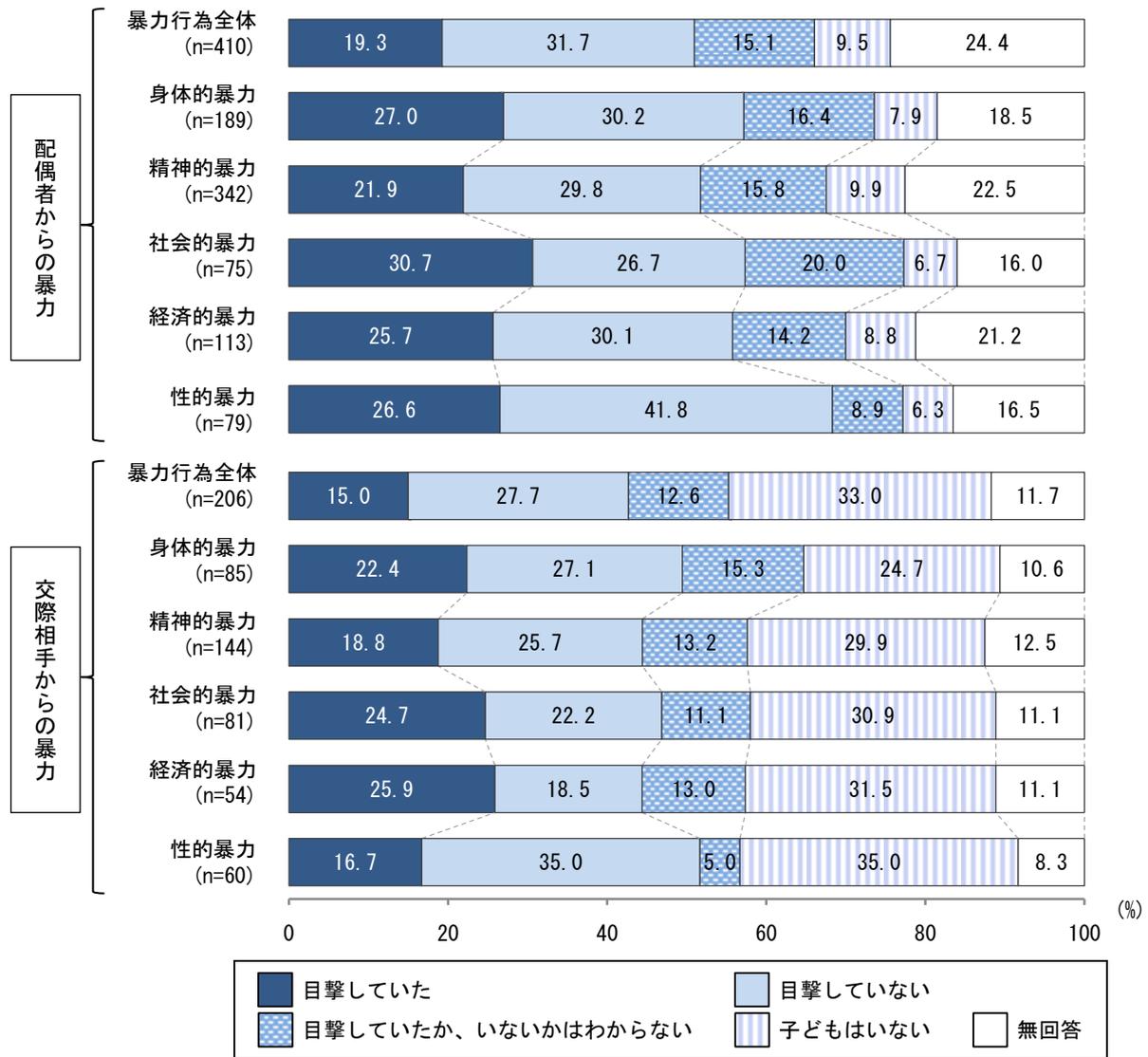
※男女ともに「20歳未満」の回答者なし。

【図表 32-3 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか(地域別)】**暴力行為経験者ベース**



地域別にみると、すべての地域で、「目撃していない」が「目撃していた」を上回っている。「目撃していた」は備前県民局管内及び備中県民局管内で約2割、「目撃していない」は美作県民局管内で3割台半ばと高くなっている。

【図表 32-4 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか(暴力の種類別)】暴力行為経験者ベース



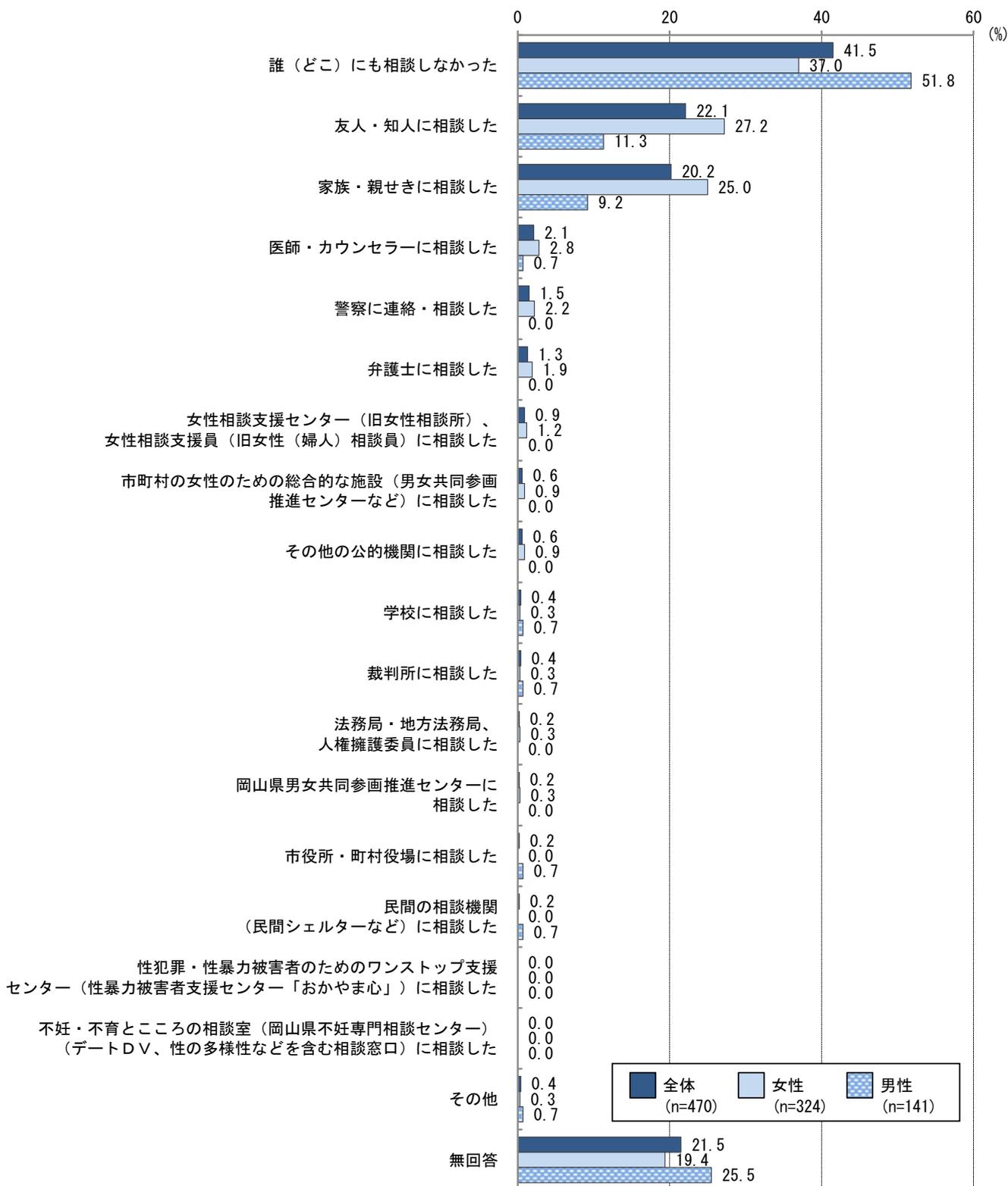
配偶者からの暴力の種類別に見ると、すべての暴力の種類において「目撃していた」が2割を超えている。  
 交際相手からの暴力の種類別に見ると、社会的暴力及び経済的暴力では「目撃していた」が2割台半ばと高くなっている。

(5) 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみ

問33 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(✓はいくつでも)

【図表 33-1 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(性別)】**暴力行為経験者ベース**



「誰（どこ）にも相談しなかった」は4割超。相談先では家族や友人の割合が高い。

配偶者や交際相手から暴力を受けたことを誰（どこ）かに相談したかについて、「誰（どこ）にも相談しなかった」が41.5%と最も高く、次いで、「友人・知人に相談した」(22.1%)、「家族・親せきに相談した」(20.2%)、「医師・カウンセラーに相談した」(2.1%)などの順となっている。

性別にみると、「誰（どこ）にも相談しなかった」は男性(51.8%)が女性(37.0%)を14.8ポイント上回っている。「友人・知人に相談した」は女性(27.2%)が男性(11.3%)を15.9ポイント、「家族・親せきに相談した」は女性(25.0%)が男性(9.2%)を15.8ポイント上回っている。

【図表 33-2 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(性年代別・上位10位)】暴力行為経験者ベース

		n数	誰（どこ）にも相談しなかった	友人・知人に相談した	家族・親せきに相談した	医師・カウンセラーに相談した	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	女性相談支援員（旧女性相談員）に相談した	女性相談支援センター（旧女性相談所）に相談した	同参画推進センターなどの総合的な施設（男女共）に相談した	市町村の女性のための総合的な施設（男女共）に相談した	その他の公的機関に相談した	学校に相談した
全体		470	41.5	22.1	20.2	2.1	1.5	1.3	0.9	0.6	0.6	0.6	0.4	
年代別	女性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	8	25.0	75.0	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	33	45.5	42.4	33.3	3.0	6.1	9.1	-	-	3.0	-	-
		40歳代	69	30.4	36.2	33.3	4.3	2.9	-	2.9	1.4	2.9	1.4	-
		50歳代	68	30.9	25.0	27.9	1.5	4.4	2.9	1.5	-	-	-	-
		60歳代	62	50.0	22.6	17.7	1.6	-	-	1.6	1.6	-	-	-
		70歳以上	82	36.6	14.6	19.5	3.7	-	1.2	-	-	1.2	-	-
	男性	20歳未満	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	6	66.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	12	75.0	8.3	16.7	8.3	-	-	-	-	-	-	-
		40歳代	27	51.9	18.5	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-
		50歳代	28	46.4	14.3	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-
		60歳代	27	51.9	11.1	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-
		70歳以上	40	45.0	5.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	2.5

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

性年代別にみると、女性の20歳代及び40歳代を除くすべての年代で「誰（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、「友人・知人に相談した」は女性の30歳代で4割超となっている。

【図表 33-3 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(地域別・上位 10 位)】**暴力行為経験者ベース**

(%)

		n 数	誰(どこ)にも相談しなかった	友人・知人に相談した	家族・親せきに相談した	医師・カウンセラーに相談した	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	女性相談支援センター(旧女性相談員)に相談した	女性相談支援センター(旧女性相談員)に相談した	市町村の女性のための総合的な施設(男女共同参画推進センターなど)に相談した	その他の公的機関に相談した	学校に相談した
全体		470	41.5	22.1	20.2	2.1	1.5	1.3	0.9	0.6	0.6	0.6	0.4
地域別 居住	備前県民局管内	247	42.5	20.2	22.3	2.8	0.8	0.8	1.2	0.8	0.8	0.8	0.4
	備中県民局管内	168	41.7	22.0	17.9	0.6	1.8	1.8	0.6	-	0.6	0.6	0.6
	美作県民局管内	54	37.0	31.5	18.5	3.7	3.7	1.9	-	1.9	-	-	-

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

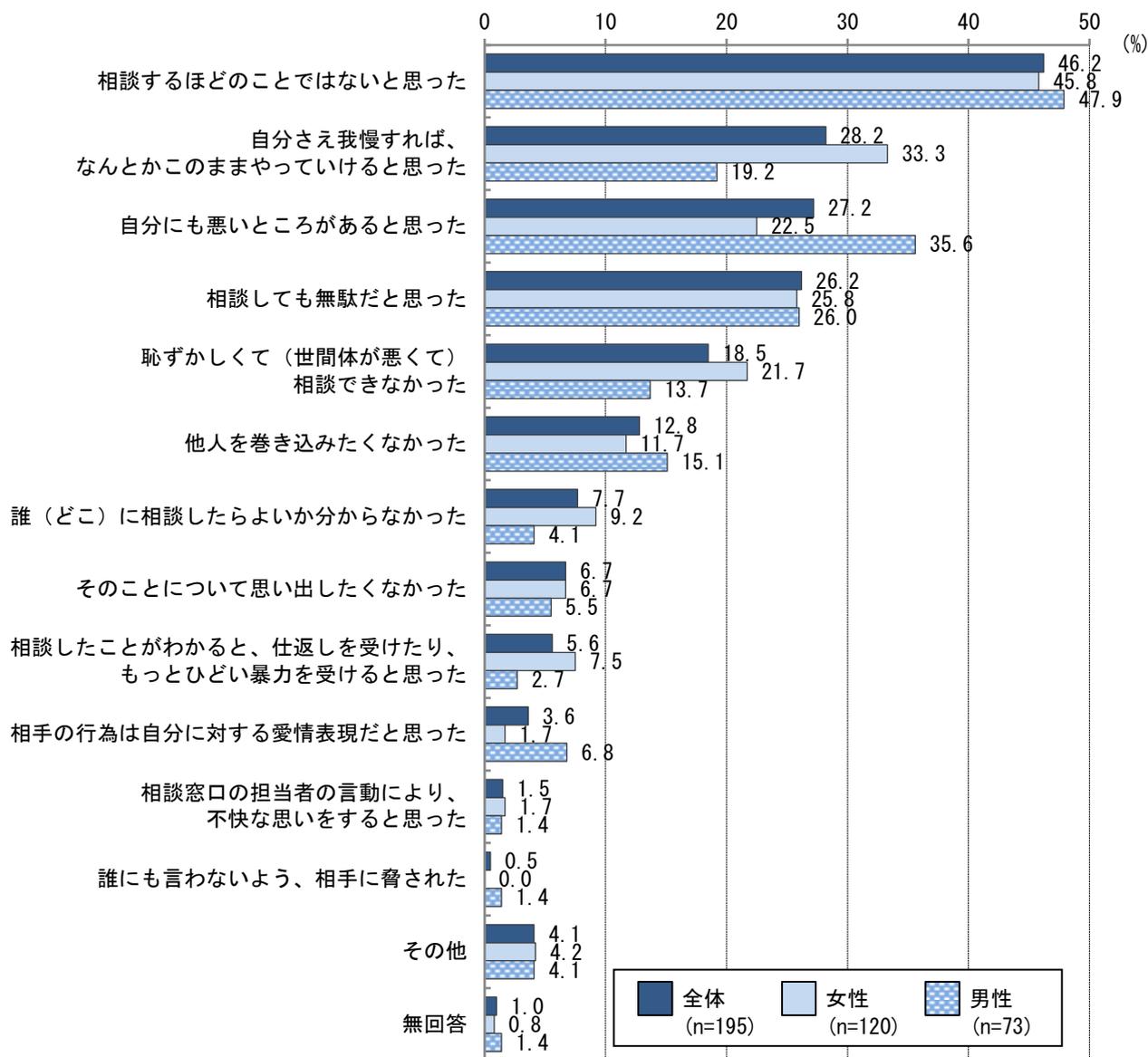
地域別にみると、「誰(どこ)にも相談しなかった」はすべての地域で最も高くなっており、「友人・知人に相談した」は美作県民局管内(31.5%)で最も高く、備前県民局管内(20.2%)で最も低くなっており、11.3 ポイントの差がある。

(6) 相談しなかった理由

問 33 で、「1.誰(どこ)にも相談しなかった」を選択した方のみ

問34 誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(✓はいくつでも)

【図表 34-1 相談しなかった理由(性別)】



「相談するほどのことではないと思った」が最も高い

相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」が 46.2%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」(28.2%)、「自分にも悪いところがあると思った」(27.2%)などの順となっている。

性別にみると、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」は女性(33.3%)が男性(19.2%)を 14.1 ポイント、「自分にも悪いところがあると思った」は男性(35.6%)が女性(22.5%)を 13.1 ポイント、「恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった」は女性(21.7%)が男性(13.7%)を 8.0 ポイント上回っている。

【図表 34-2 相談しなかった理由(性年代別・上位 10 位)】暴力行為経験者ベース

(%)

		n 数	と相談するほどのことではない	かこのままやっつけていけると思った	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっつけていけると思った	自分にも悪いところがあると思っただ	相談しても無駄だと思っただ	恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった	他人を巻き込みたくなかった	か分(どこ)に相談したらよい	くそのことについて思い出した	い暴力を受けたり、もつとひどい	返談したことがわかると、仕事	相談したことがわかると、仕事	情報現だと自分に対する愛
全体		195	46.2	28.2	27.2	26.2	18.5	12.8	7.7	6.7	5.6	3.6			
年代別	女性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	50.0
		30歳代	15	26.7	40.0	33.3	20.0	33.3	13.3	13.3	6.7	6.7	-	-	-
		40歳代	21	47.6	28.6	23.8	28.6	38.1	19.0	9.5	4.8	23.8	4.8	-	-
		50歳代	21	38.1	47.6	4.8	33.3	9.5	19.0	9.5	9.5	-	-	-	-
		60歳代	31	61.3	22.6	25.8	12.9	6.5	9.7	3.2	6.5	3.2	-	-	-
		70歳以上	30	43.3	33.3	26.7	36.7	30.0	3.3	13.3	3.3	6.7	-	-	-
	男性	20歳未満	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
20歳代	4	75.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30歳代	9	55.6	55.6	22.2	44.4	22.2	22.2	-	11.1	11.1	11.1	-	-		
40歳代	14	50.0	21.4	35.7	28.6	21.4	14.3	14.3	7.1	7.1	-	-	-		
50歳代	13	30.8	30.8	61.5	30.8	23.1	7.7	7.7	-	-	-	-	7.7		
60歳代	14	21.4	7.1	14.3	28.6	7.1	28.6	-	14.3	-	-	-	-		
70歳以上	18	66.7	5.6	44.4	16.7	5.6	11.1	-	-	-	-	-	-		

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

性年代別にみると、男女ともに、女性の 30 歳代を除くすべての年代で「相談するほどのことではないと思った」が上位となっている。女性はすべての年代で「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっつけていけると思った」、男性は 30 歳代以降のすべての年代で「相談しても無駄だと思った」が上位に入っている。

【図表 34-3 相談しなかった理由(地域別・上位 10 位)】暴力行為経験者ベース

(%)

		n 数	と相談するほどのことではない	かこのままやっつけていけると思った	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっつけていけると思った	自分にも悪いところがあると思っただ	相談しても無駄だと思っただ	恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった	他人を巻き込みたくなかった	か分(どこ)に相談したらよい	くそのことについて思い出した	い暴力を受けたり、もつとひどい	返談したことがわかると、仕事	相談したことがわかると、仕事	情報現だと自分に対する愛
全体		195	46.2	28.2	27.2	26.2	18.5	12.8	7.7	6.7	5.6	3.6			
地域別	備前県民局管内	105	50.5	28.6	27.6	22.9	19.0	10.5	7.6	7.6	4.8	4.8	-	-	
	備中県民局管内	70	34.3	31.4	27.1	31.4	17.1	14.3	7.1	5.7	7.1	1.4	-	-	
	美作県民局管内	20	65.0	15.0	25.0	25.0	20.0	20.0	10.0	5.0	5.0	5.0	-	-	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

地域別にみると、「相談するほどのことではないと思った」はすべての地域で最も高くなっている。「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっつけていけると思った」、「相談しても無駄だと思った」は備中県民局管内で3割超と高くなっている。

【図表 34-4 相談しなかった理由(暴力の種類別・上位 10 位)】配偶者からの暴力

		n 数	と相談した	かこのまま	自分さえ我慢すれば、なんと	相談しても無駄だと思った	自分にも悪いところがある	恥づかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった	他人を巻き込みたくなかった	誰(どこ)に相談したらよい	そのことについて思い出した	い返したことがわかった	相談したことがわかった	相手の行為は自分に対する愛	(%)
暴力行為全体		166	45.2	28.9	28.3	27.1	18.1	13.9	6.6	5.4	5.4	1.8			
暴力の種類別	身体的暴力	81	44.4	18.5	30.9	33.3	24.7	12.3	7.4	4.9	8.6	2.5			
	精神的暴力	138	44.2	33.3	31.9	23.2	19.6	15.2	6.5	5.1	6.5	1.4			
	社会的暴力	27	29.6	29.6	48.1	40.7	48.1	40.7	11.1	7.4	18.5	3.7			
	経済的暴力	31	25.8	38.7	41.9	29.0	32.3	22.6	16.1	3.2	16.1	-			
	性的暴力	31	35.5	35.5	29.0	19.4	45.2	22.6	9.7	3.2	22.6	-			

1位 2位 3位

配偶者からの暴力の種類別にみると、身体的暴力、精神的暴力では「相談するほどのことではないと思った」が4割台半ば、社会的暴力では「相談しても無駄だと思った」、「恥づかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった」が約5割と高くなっている。

【図表 34-5 相談しなかった理由(暴力の種類別・上位 10 位)】交際相手からの暴力

		n 数	と相談した	かこのまま	自分さえ我慢すれば、なんと	相談しても無駄だと思った	自分にも悪いところがある	恥づかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった	他人を巻き込みたくなかった	誰(どこ)に相談したらよい	そのことについて思い出した	い返したことがわかった	相談したことがわかった	相手の行為は自分に対する愛	(%)
暴力行為全体		88	46.6	30.7	29.5	27.3	26.1	13.6	12.5	10.2	8.0	5.7			
暴力の種類別	身体的暴力	30	46.7	16.7	40.0	30.0	33.3	10.0	20.0	6.7	3.3	10.0			
	精神的暴力	61	42.6	31.1	34.4	21.3	31.1	16.4	16.4	9.8	3.3	6.6			
	社会的暴力	25	36.0	44.0	40.0	44.0	44.0	24.0	20.0	12.0	12.0	16.0			
	経済的暴力	16	43.8	43.8	56.3	31.3	56.3	12.5	25.0	12.5	6.3	18.8			
	性的暴力	26	34.6	50.0	23.1	53.8	23.1	19.2	19.2	23.1	3.8	11.5			

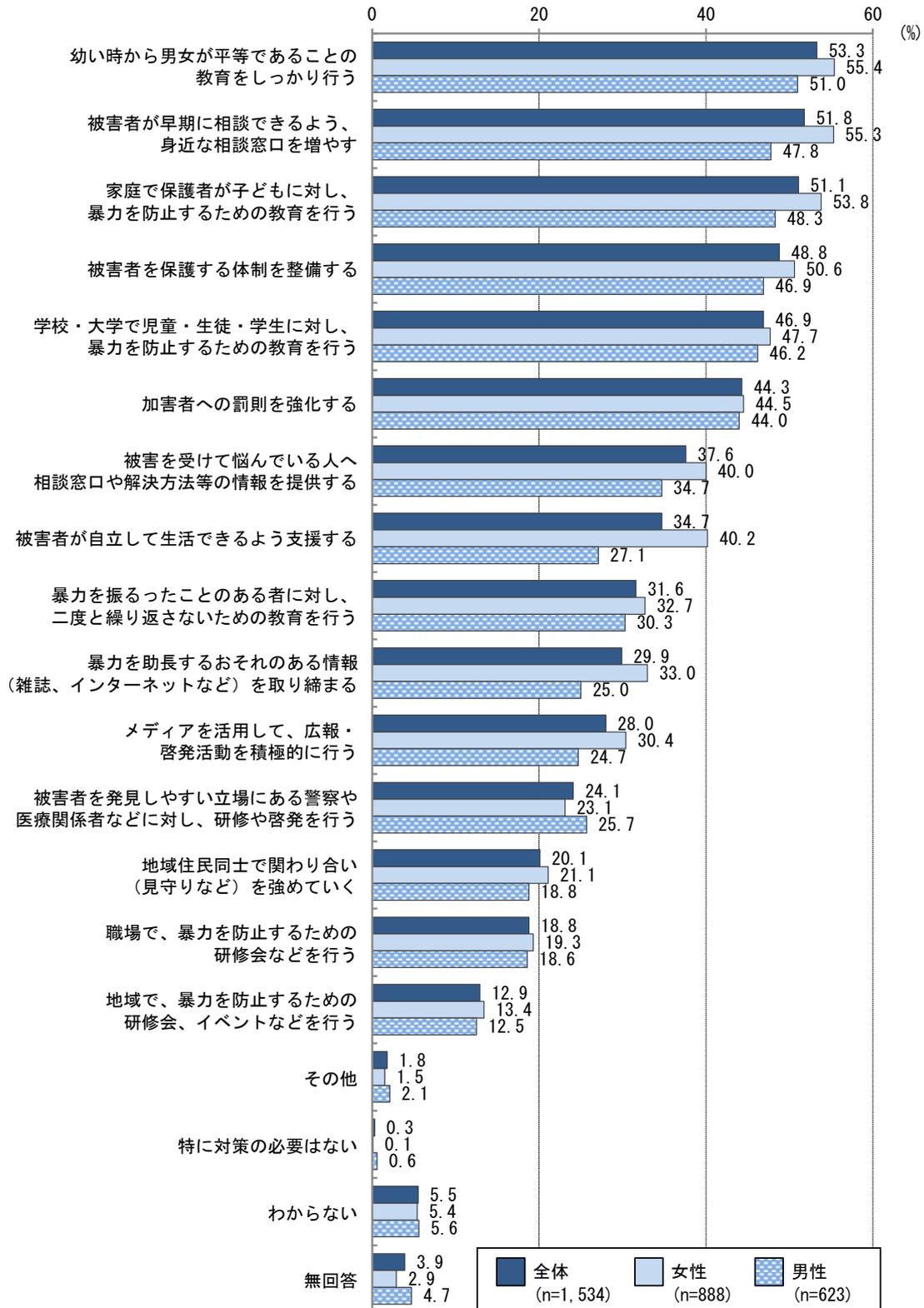
1位 2位 3位

交際相手からの暴力の種類別にみると、性的暴力では「恥づかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった」が5割台半ば、経済的暴力では「自分にも悪いところがあると思った」、「相談しても無駄だと思った」が5割台半ばと高くなっている。

(7) 男女間の暴力を防止するために必要なこと

問35 男女間における暴力(配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、セクシュアルハラスメントなど)への取組として必要なことはどんなことだと思いますか。(✓はいくつでも)

【図表 35-1 男女間の暴力を防止するために必要なこと(性別)】



「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」が最も高い

男女間の暴力を防止するために必要なことについて、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」が 53.3%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(51.8%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(51.1%)などの順となっている。

性別にみると、「被害者が自立して生活できるよう支援する」は女性(40.2%)が男性(27.1%)を 13.1 ポイント上回っている。

【図表 35-2 男女間の暴力を防止するために必要なこと(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	幼い時から男女が平等である	被害者が早期に相談できる	家庭で保護者が子どもに	被害者を保護する体制を整備	学校・大学で児童・生徒・学生に暴力を防止する	加害者への罰則を強化する	被害を受けた方への相談窓口や解決方法等	被害者が自立して生活できる	暴力を振ったことのある者	情報(雑誌、インターネット)	暴力を助長するおそれのある者
全体		1,534	53.3	51.8	51.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9	
年代別	女性	20歳未満	18	38.9	50.0	55.6	55.6	33.3	55.6	38.9	27.8	22.2	33.3
		20歳代	54	55.6	61.1	66.7	68.5	51.9	72.2	48.1	51.9	42.6	29.6
		30歳代	89	56.2	53.9	59.6	60.7	49.4	65.2	33.7	48.3	38.2	34.8
		40歳代	132	53.0	51.5	53.0	51.5	53.0	49.2	39.4	40.9	36.4	31.8
		50歳代	143	53.8	55.9	50.3	58.0	44.1	49.7	39.9	46.2	30.8	30.8
		60歳代	176	62.5	66.5	52.3	55.1	54.0	40.3	44.9	41.5	39.8	40.9
		70歳以上	269	53.5	49.8	53.2	36.8	43.1	29.4	37.9	32.7	24.2	30.5
	男性	20歳未満	15	26.7	33.3	40.0	46.7	40.0	33.3	6.7	26.7	40.0	6.7
		20歳代	39	48.7	59.0	51.3	59.0	53.8	61.5	48.7	33.3	51.3	25.6
		30歳代	45	46.7	40.0	57.8	44.4	55.6	42.2	28.9	20.0	26.7	8.9
		40歳代	95	53.7	54.7	57.9	53.7	51.6	55.8	40.0	33.7	34.7	23.2
		50歳代	114	59.6	49.1	49.1	52.6	43.0	50.9	39.5	32.5	35.1	24.6
		60歳代	123	46.3	50.4	47.2	49.6	43.9	40.7	30.9	30.1	31.7	30.1
		70歳以上	191	50.8	42.9	41.4	36.6	44.0	33.5	32.5	19.4	20.4	28.3

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

性年代別にみると、「加害者への罰則を強化する」は女性の 20 歳代で 7 割超、男性の 20 歳代で 6 割超と高くなっている。

【図表 35-3 男女間の暴力を防止するために必要なこと(地域別・上位 10 位)】

		n 数	こ 幼 い 時 か ら 男 女 が 平 等 で あ る 教 育 を し っ か り 行 う	う 被 害 者 が 早 期 に 相 談 窓 口 を 増 や す よ	育 し 、 家 庭 で 保 護 者 が 子 ど も に 対 し 暴 力 を 防 止 す る た め に 教 育 を 行 う	す 被 害 者 を 保 護 す る 体 制 を 整 備	め 生 校 ・ 大 学 で 児 童 ・ 生 徒 ・ 学 生 に 対 し 、 暴 力 を 防 止 す る た め に 教 育 を 行 う	加 害 者 へ の 罰 則 を 強 化 す る	を 相 談 窓 口 や 解 決 方 法 等 の 情 報 を 提 供 す る	被 害 者 が 自 立 し て 生 活 で き る よ う 支 援 す る	た め に 暴 力 を 振 る つ た こ と の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め に 教 育 を 行 う	な 情 報 を 取 り 締 ま る 暴 力 を 助 長 す る お そ れ の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め に 教 育 を 行 う
全 体		1,534	53.3	51.8	51.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9
地 域 別 居 住	備前県民局管内	756	53.7	53.3	52.6	51.2	49.1	48.3	37.8	37.0	32.1	29.8
	備中県民局管内	612	51.5	49.2	48.2	44.6	43.6	40.2	35.9	31.2	28.8	28.9
	美作県民局管内	158	60.8	55.7	56.3	53.8	50.0	43.0	43.7	38.0	41.8	34.2

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

地域別にみると、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」はすべての地域で最も高くなっており、美作県民局管内で約6割となっている。「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」は、美作県民局管内が約4割と高くなっている。

【図表 35-4 男女間の暴力を防止するために必要なこと(暴力を受けた経験の有無別・上位 10 位)】

		n 数	こ 幼 い 時 か ら 男 女 が 平 等 で あ る 教 育 を し っ か り 行 う	う 被 害 者 が 早 期 に 相 談 窓 口 を 増 や す よ	育 し 、 家 庭 で 保 護 者 が 子 ど も に 対 し 暴 力 を 防 止 す る た め に 教 育 を 行 う	す 被 害 者 を 保 護 す る 体 制 を 整 備	め 生 校 ・ 大 学 で 児 童 ・ 生 徒 ・ 学 生 に 対 し 、 暴 力 を 防 止 す る た め に 教 育 を 行 う	加 害 者 へ の 罰 則 を 強 化 す る	を 相 談 窓 口 や 解 決 方 法 等 の 情 報 を 提 供 す る	被 害 者 が 自 立 し て 生 活 で き る よ う 支 援 す る	た め に 暴 力 を 振 る つ た こ と の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め に 教 育 を 行 う	な 情 報 を 取 り 締 ま る 暴 力 を 助 長 す る お そ れ の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め に 教 育 を 行 う
全 体		1,534	53.3	51.8	51.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9
の 暴 力 を 受 け た 経 験 の 有 無 別	暴力を受けた経験あり	470	53.6	45.1	50.9	45.1	46.0	37.9	35.1	37.4	30.4	28.5
	暴力を受けた経験なし	1,064	53.2	54.8	51.2	50.4	47.3	47.2	38.7	33.6	32.1	30.5

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

暴力を受けた経験の有無別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」は経験あり(45.1%)が経験なし(54.8%)を 9.7 ポイント下回っている。

【図表 35-5 男女間の暴力を防止するために必要なこと(配偶者から「何度も」暴力行為を受けたことがある回答者・上位 10 位)】

	n 数	ここの時から男女が平等である	う被害者が早期に相談できるよ	育し、家庭で保護者が子どもに教	め、学校・大学で児童・生徒・学	生、家庭で保護者が子どもに教	す被害者を保護する体制を整備	加害者への罰則を強化する	を相談窓口や解決方法等の情報	被害者を受け付けている人へ	よ被害者が自立して生活できる	たに暴力を振るったことのある者	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる
全体	1,276	54.9	51.5	50.6	47.6	46.8	42.2	36.8	34.3	30.9	30.6		
配偶者から「何ども」暴力行為を受けたことがある	183	55.2	47.5	51.9	44.3	43.7	36.6	35.0	42.1	29.0	27.3		

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

「何ども」暴力行為を受けたことがある回答者について、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」が 55.2%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(51.9%)、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(47.5%)などの順となっている。

【図表 35-6 男女間の暴力を防止するために必要なこと(経年比較・上位 10 位)】

		n 数	ここの時から男女が平等である	う被害者が早期に相談できるよ	育し、家庭で保護者が子どもに教	め、学校・大学で児童・生徒・学	生、家庭で保護者が子どもに教	す被害者を保護する体制を整備	加害者への罰則を強化する	を相談窓口や解決方法等の情報	被害者を受け付けている人へ	よ被害者が自立して生活できる	たに暴力を振るったことのある者	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる
経年比較	H21	1,490	43.2	49.7	54.5	37.3	40.8	33.4	30.1	27.9	37.7			
	H26	1,386	44.4	51.4	54.6	41.7	41.2	36.8	33.4	30.1	27.3	24.3		
	R1	1,532	45.4	47.0	46.1	40.1	38.6	40.0	30.9	28.4	25.2	21.2		
	R6	1,534	53.3	51.8	51.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9		

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

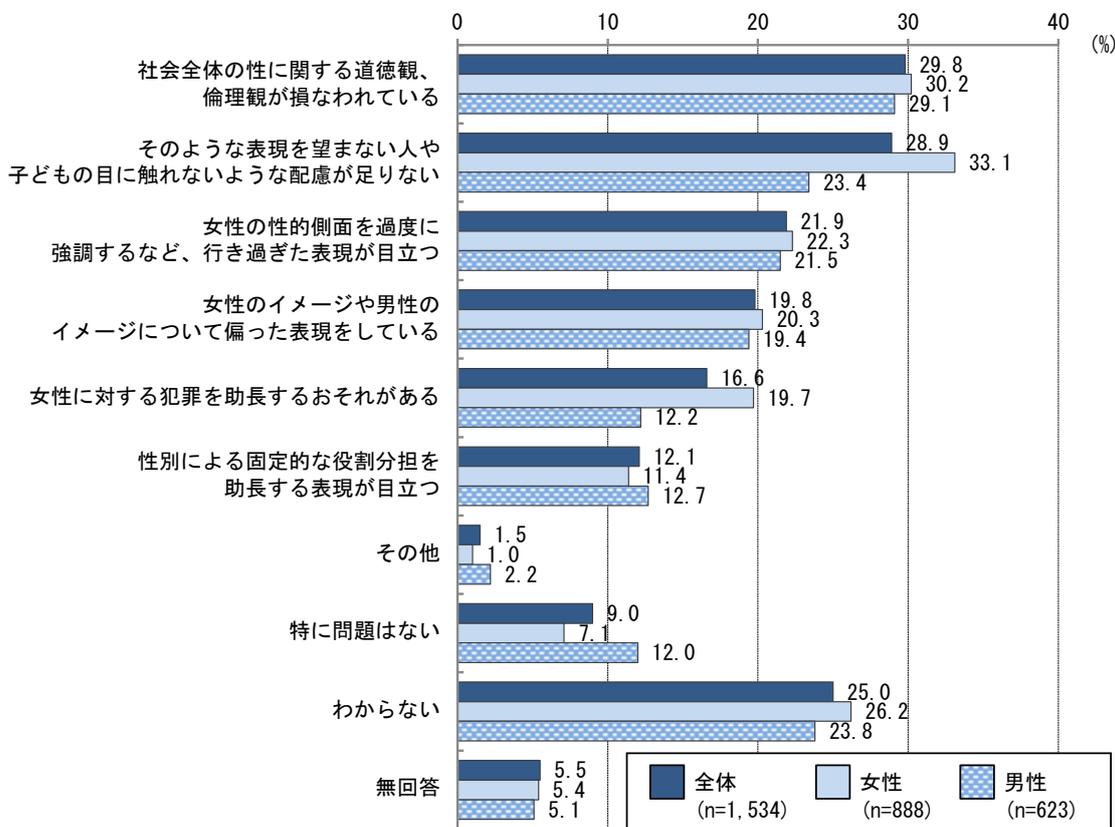
経年比較でみると、「被害者を保護する体制を整備する」は令和6年調査(48.8%)が令和元年調査(40.1%)を 8.7 ポイント、「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる」は令和6年調査(29.9%)が令和元年調査(21.2%)を 8.7 ポイント、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」は令和6年調査(46.9%)が令和元年調査(38.6%)を 8.3 ポイント上回っている。

※「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる」は、H21、H26 調査では「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる」となっている。

(8) メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現

問36 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、Webなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。(✓はいくつでも)

【図表 36-1 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(性別)】



「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高い

メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が 29.8%と最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(28.9%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(21.9%)などの順となっている。

性別にみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」は女性(33.1%)が男性(23.4%)を 9.7 ポイント上回っている。

※H16 調査では、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。次の中からあなたのお考えに近いものをお選びください。」と聞いている。H21、H26、R1 調査では、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものをお選びください。」と聞いている。

【図表 36-2 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(性年代別)】

		n 数	観、倫理観が損なわれない	社会全体の性に関する道徳	よや子どもの目に触れない	人子のような表現を望まない	そのような表現を望まない	現調が目立つ	調する性的側面を過度に強調	女性性の側面を過度に強調	をしている	女性のイメージや男性の表現	女性に対する犯罪を助長する	女性に對する犯罪を助長する	性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	その他	特に問題はない	わからない	無回答
全体		1,534	29.8	28.9	21.9	19.8	16.6	12.1	1.5	9.0	25.0	5.5							
年代別	女性	20歳未満	18	16.7	11.1	22.2	16.7	5.6	11.1	-	11.1	50.0	5.6						
		20歳代	54	20.4	35.2	22.2	42.6	16.7	22.2	-	14.8	16.7	1.9						
		30歳代	89	14.6	31.5	21.3	22.5	18.0	12.4	-	6.7	33.7	2.2						
		40歳代	132	16.7	30.3	18.2	17.4	22.0	15.2	0.8	10.6	33.3	3.0						
		50歳代	143	28.0	33.6	21.0	24.5	18.2	11.2	4.2	9.1	25.9	2.1						
		60歳代	176	34.7	41.5	23.3	20.5	21.6	13.1	0.6	6.3	19.9	6.3						
		70歳以上	269	43.5	30.9	25.3	14.9	20.4	6.3	0.4	2.6	25.3	8.9						
	男性	20歳未満	15	-	20.0	20.0	33.3	-	13.3	-	20.0	26.7	13.3						
		20歳代	39	17.9	23.1	23.1	30.8	10.3	23.1	-	20.5	23.1	-						
		30歳代	45	15.6	20.0	17.8	17.8	8.9	24.4	8.9	22.2	17.8	2.2						
		40歳代	95	24.2	22.1	21.1	18.9	10.5	14.7	5.3	16.8	23.2	3.2						
		50歳代	114	27.2	23.7	21.9	20.2	15.8	8.8	0.9	12.3	28.1	2.6						
		60歳代	123	28.5	21.1	22.0	17.9	10.6	11.4	2.4	9.8	24.4	3.3						
		70歳以上	191	40.8	26.7	22.0	16.8	14.1	9.9	0.5	6.3	22.5	9.9						

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

性年代別にみると、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」は女性の 20 歳代で 4割超、男性の 20 歳代で約3割、「性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ」は男性の 20 歳代~30 歳代で2割台半ばと高くなっている。女性の 20 歳代及び 60 歳代、男性の 30 歳代を除くすべての年代で「わからない」も上位に入っている。

【図表 36-3 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(地域別)】

(%)

		n 数	る観社 、会全 倫理体 観の性 が損に 関する 道徳	よやそ うな子 な配慮 がの目 足りに ない	人その やよう な表現 を望ま ない	現調女 がする 目立的 性的側 面を過 ぎた表 強	をメ女 して性の にイメ じにつ いて偏 った表 現	る女女 おそれ がある 犯罪を 助長す	担性別 を助長 する固 定的な 役割分 担	その他	特に問 題はな い	わか らな い	無回 答
全 体		1,534	29.8	28.9	21.9	19.8	16.6	12.1	1.5	9.0	25.0	5.5	
地域別 居住	備前県民局管内	756	28.8	30.2	22.4	18.9	17.9	11.4	1.7	9.4	25.7	4.9	
	備中県民局管内	612	31.5	27.0	21.6	20.3	15.7	12.1	1.3	8.2	24.8	5.9	
	美作県民局管内	158	27.8	31.0	21.5	23.4	13.9	15.8	1.3	10.8	23.4	5.1	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

地域別にみると、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」はすべての地域で上位となっている。

【図表 36-4 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(経年比較)】

(%)

		n 数	る観社 、会全 倫理体 観の性 が損に 関する 道徳	よやそ うな子 な配慮 がの目 足りに ない	人その やよう な表現 を望ま ない	現調女 がする 目立的 性的側 面を過 ぎた表 強	をメ女 して性の にイメ じにつ いて偏 った表 現	る女女 おそれ がある 犯罪を 助長す	担性別 を助長 する固 定的な 役割分 担	その他	特に問 題はな い	わか らな い	無回 答
経年比較	H16	2,064	48.4	47.2	32.9	16.2	21.1	12.5	0.7	5.0	14.3	6.2	
	H21	1,490	46.3	40.3	27.2	14.5	22.7	9.6	2.1	8.3	16.6	4.3	
	H26	1,386	40.7	35.6	27.0	15.3	18.8	10.6	1.4	8.0	17.1	4.2	
	R1	1,532	30.0	26.4	19.8	15.0	12.2	12.1	1.6	9.9	23.2	9.3	
	R6	1,534	29.8	28.9	21.9	19.8	16.6	12.1	1.5	9.0	25.0	5.5	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

経年比較でみると、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」は減少傾向にある。一方、「わからない」は増加傾向にある。